



みんなの知らない
方言の世界

「みんなの知らない方言の世界」

目次

はじめに：趣旨説明	1
片岡邦好(愛知大学)	
「標準語のようで標準語ではない愛知県のことば」	3
朝日祥之(国立国語研究所)	
方言とアイデンティティー —“自分らしさ”の拠り所としての方言—	25
高野 照司(北星学園大学)	
自分の「声」としての方言 —メディアの中の方言使用を例に—	51
太田 一郎(鹿児島大学)	
「方言」の飛び交う国会審議	77
松田 謙次郎(神戸松蔭女子学院大学)	
「福岡県議会における老年層議員のスピーチスタイル」	95
二階堂 整(福岡女学院大学)	

開催日時：2018年3月25日(日) 13:00～17:30

開催場所：愛知大学（豊橋校舎）研究館1階 第1・2会議室

主 催：愛知大学人文社会学研究所

後 援：国立国語研究所・領域指定型 「議会録を活用した日本語のスタイル変異研究」

はじめに：趣旨説明

片岡邦好(愛知大学)

プログラムに先立ち、企画担当者の愛知大学・片岡より本ワークショップの趣旨・目的などを簡単に説明させていただきたいと思います。本日まで登壇いただく先生方は「言語変異」という学問分野をご専門になさっています。言語学という学問の中に「社会言語学」といわれる分野がありますが、その中でも「言語変異」と言われる、ことばの変化を扱う分野の研究をされている先生方です。

さて、「言語変異」とはいったい何なのでしょう。当たり前のことですが、言葉は刻々と変化します。その変化を捉えるために、例えばこれを豊橋名産の「ちくわ」に譬えてみましょう（図1）。輪切りにしたときの切り口を「縦軸」で、ちくわの端から端までを「横軸」としましょう。どのようなことかといいますと、今この時に、地域によっても、集団によっても、特定の民族によっても、性差や年齢によってもことばは一樣ではありません。これが縦軸に当たり、「共時的」な変化にあたります。その一方で、時間の変遷に伴って歴史的に変化する、つまり非常に長い時間のスパンのなかで変化する特徴が横軸にあたり、これを「通時的」な変化と呼んでいます。

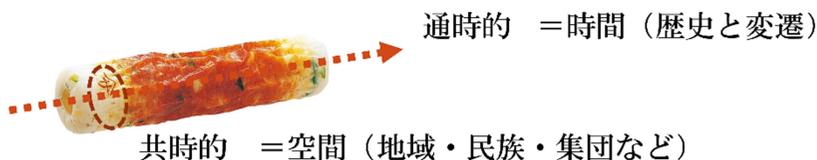


図1 通時的・共時的変化

このように、ことばはこの二つの側面で大きく変化するわけですが、どうも乱雑に、でたらめに変化している訳ではないというのが、本日の登壇者の方々が持っている共通認識だと思います。一見、自由きままに変化しているように見えますが、その後ろに何か体系や、もしかしたら規則のようなものがあるのではないかと

認識に立って、それを見つけることで、人間の心や社会をよりよく知ろうとするのが「社会言語学」の目的かと思います。

本日のシンポジウムでは、北は北海道から南は九州まで、登壇者の方々が独自の視点で、さまざまな変異の背景について話をしてください。各々の方言が地域や集団、場合によっては、個人によって、気付かないうちに、あるいは意図的に変わるときもあります。どのように、なぜ変化するのかという視点からお話しいただきます。この点で、おもに共時的な変化が中心にはなりますが、それを生み出す歴史的、通時的な変化にも目を向けることになるでしょう。

方言、そして言葉全般については、会場の皆さんを含め誰もが、自分なりのいろいろなお考えをお持ちのことと思います。今日の発表のなかで、皆さんに納得していただける部分、そうでない部分があるかと思います。ぜひ、そういったご意見、ご質問は、質疑応答の際に出していただければ非常にありがたく思います。そうすることで、多くの人に言語変異の研究をより身近に感じていただければ、企画者としてこれ以上の喜びはありません。

「標準語のようで標準語ではない愛知県のことば」

朝日祥之(国立国語研究所)

はじめに

私からは、「標準語のようで標準語ではない愛知県のことば」という題目で話題提供をさせていただきます。このテーマで話をさせていただきますが、愛知県の方言については、皆さんのほうが詳しい可能性もありますし、大学で愛知県の方言について講義をなさっている先生もいらっしゃいます。与えられた 40 分を十分に使いながら、皆さんと一緒に愛知県の方言の魅力に迫りたいと思います。よろしく願いいたします。

私の所属機関である国立国語研究所は、文部科学省所管の研究機関です。日本語についての科学的かつ学術的な研究をおこなう機関です。今日の講演ですが、6つのことを取り上げます。まず、自己紹介をしなければなりませんし、本題に入る前にある告白をしなければいけませんので少しだけ時間をいただきます。

次に愛知県のことばに関して、これまでの研究で明らかにされていること、指摘をされていることをご紹介します。例えば、皆さんにお住まいになっているところをお尋ねした上で、例えば、愛知県、静岡県の浜松市のあたり、岐阜県や三重県などの地域の言葉との関係など、愛知県の言葉の特徴について話したいと思います。実はそれが標準語を使っているかどうかということと関係があります。

個人的には幼少期の頃から東京で生活を始めるまでは「自分は方言なんか使っているものか」という思いでおりました。ところが東京で生活すると「自分のことは方言ばかりじゃないか」ということに気づきました。したがって自分の使っている「ことば」をどのように見なしているのかということも扱いたいと思います。

このスライドの一番下に「気づかない方言!？」と書きました。これは実は普通に使っている言葉が、全国どこへ行っても通じるわけではないということに関係します。この講演ではその具体例をいくつかご紹介します。そして、愛知県の言葉は、これ

からどのようになっていくのか、ということについて私見を述べたいと思います。

自己紹介

私は愛知県の尾張地方の出身です。ここ東三河地方にある愛知大学で、尾張地方の人間が東三河地方に住む皆さんに、「愛知県の言葉はこんなものだ」と紹介することになるわけです。尾張地方の人間が、同じ尾張地方の言葉、また三河地方の言葉をどのようなスタンスで評価をするのか、色々な意味で神経を使います。みなさんの中には、「どうせ、朝日は名古屋の人間なのだから自分たちの地域のことなどわかるはずもない」などとお考えになる方もいらっしゃるかもしれません。ただし私としては、愛知県の言葉の魅力を少しでも多く伝えたいと思っております。その意味でも、お手柔らかにお願いいたします。

私の生まれた名古屋市中川区の出身はいわゆる「下町」になります。名古屋方言の中でも伝統的な方言が残しやすい地域で、実際、尾張地方の方言を扱った論文に私の通った小中学校の学区にある八家(やつや)町が選ばれています。一方で、名古屋大学や南山大学がある地域は、いわゆる上町(うわまち)と呼ばれます。上町と下町とでは、同じ名古屋市内ですが、異なる方言の特徴が観察されると言われています。この点で、本講演で私の使う「名古屋方言」は基本的には中川区を中心とした下町の言葉になることはご承知おきください。

さて、私の勤務先である国立国語研究所には 2004 年より勤務しております。先ほどの紹介にもありましたように、言語変異を研究するところに所属しております。日本国内外のさまざまな地域（北海道，サハリン，ハワイ，サイパン，アメリカ等）で調査をしていますが、そこに共通しているのはいわゆる「外地(がいち)」と呼ばれる地域を調査対象としている点です。

国立国語研究所は、1948 年に創立された日本語に関する学術調査研究機関です。本年で 70 年目を迎えます。国立国語研究所で進められてきた研究事業のうち、私の担当した調査に西三河の岡崎市で敬語の調査があります。この調査は昭和 28 年（1953 年）に第 1 回の調査を実施してから、約半世紀がたった平成 20 年（2008

年)に敬語の使い方、敬語に対する意見の調査を実施しました。調査は、サンプリングによって選出された岡崎市民の方のお宅に調査員が個別に伺い、話を聞かせてもらいました。調査には合計4週間、関連する調査や打ち合わせ、調査報告会を含めると2ヶ月ほど岡崎市に滞在しました。

また国立国語研究所の職員なので、さすが正確な標準語を使うだろうと一般的には思われがちです。私自身、自分の肩書に負けないような言葉づかいをしていると思っているのですが、私の日本語のイントネーションには標準語とは異なるものがあります。その違いについては後で取り上げたいと思います。

愛知県のことば

「愛知県のことば」にはみなさんご存知の通り、尾張と三河で言葉遣いが違います。その違いは文化の面にも見られると思います。私ごとですが、高校を卒業した後、予備校に1年通いました。そこで知り合った西尾市出身のクラスメイトが「じゃん・だら・りん」を使っているのを聞いて、かなりショックを受けたこともありました。別の友人から「手紙書きなん」と、相手に手紙を書くことを勧める意味で「なん」と使うことも知りました。これらは尾張の人間からすると随分違和感を覚えます。

今から、今日ここにいらしている皆様のご出身をおたずねします。差し支えない範囲で教えてください。まず「三河地方のご出身の方」。(挙手) ありがとうございます。それでは「尾張から来た」という人はいますか。(挙手) 同朋ですね。ありがとうございます。「静岡から来た」(挙手) 若干いらっしゃいますね。ありがとうございます。うれしいです。「その他」の方はいらっしゃいますか。(挙手) はい、ありがとうございます。

三河地方の方におたずねしたいのですが、三河のなかの西と東ですが、例えば、豊橋市の方からしますと、この岡崎市はどのようなところでしょうか。逆に、岡崎市の方からしますと、豊橋市はどのようなところでしょうか。両地域は同じようなところでしょうか？ 違うでしょうか？ 私のような尾張地方の者からすると、豊橋

市は愛知県の反対側にある大きな町で、岡崎は愛知県の真ん中にある町というイメージなのですが。いかがでしょうか。どうやらいろいろな意見がありますね。

例えば、豊橋市の人が岡崎高校に入学するとします。そうすると「おまえ、何やってんだ。時習館高校へ行けよ」というようなことはありますでしょうか。名古屋の東海中学校まで行こうとすると、「あんなところ行くなよ」となるんでしょうか。名古屋まで仕事をしに行っているという場合の評価はいかがでしょう。名古屋ではなく東京に行ったほうがいいと言われるようなことはありますか。おそらくいろいろなご意見があると思います。例えば、豊橋市の方が浜松市のあたりに仕事をしに行くことをどのように評価するでしょうか。大阪や東京に出ていくことをどう思いますか。おそらく、どれを取っても同じではないと思います。

例えば、札幌で北海道の人と話すと、「いやあ、俺は意を決して東京に行くんだ」という人は少なくありません。一方で「近くに仙台があるじゃないか」と思っても、北海道の人にとって、東京の存在は大きいのです。北海道で「おら、東京行くことを決めたんだ」と大きな声で汽車のなかで話している人を見かけたこともあります。皆さん、どうでしょうか。イメージはどうでしょうか、違いますか？

話を戻して、豊橋市と静岡の遠州とは文化的に似ている印象を受けますが、いかがでしょうか。もちろんこの間には県境がありますから、両地域は異なると思ってしまうような気もします。それとも、「いやいや、本当にこの二つの地域は似ているのだ」と思っているんじゃないかなとも思います。このようなことは、尾張地方の人間からしますと、岐阜県美濃地方との関係にみられます。中には「岐阜なんか田舎だ」という意見もありますが、言葉の面で似ているところは少なくないと思います。もしかしたら尾張地方は岐阜県美濃地方と同じ県になり、三河地方は静岡の遠州地域と同じ県になった方がよかったかもしれません。

これを踏まえると、尾張地方の私からすると、岡崎市から豊橋市にかけての地域の言葉についてあまり評価をしない一方で、岐阜市までの地域の言葉については、例えば、一宮市の言葉のように、言葉が粗くて汚いというような評価を行うことになります。実際、幼少期に、私の家族や近所の人が、「いや、あの人は、一宮から来

て言葉が汚いんだよ」ということを言っているのをよく聞きました。このような言葉の粗さの評価が、なぜ起こるのかということは非常に興味深い点です。どこかの特徴が耳について、それが何らかのかたちでマイナスの感情の評価になっているわけですが、なぜかということは研究をしなければなりません。

愛知県の方言について

ここで少し方言の研究で指摘されていることに触れます。すでに申し上げたとおり、愛知県には、尾張方言と三河方言があります。これにはもちろん美濃方言・遠州方言との関連がそれぞれ強いと言われます。三河方言は、さらに西三河方言と東三河方言とに分類することができます

ここでそれぞれを代表する方言を次のように挙げました。

(1) 「じゃんだらりん」

(2) 文末詞 尾張の「なも」西三河の「なん」東三河の「のん」

例：ひるげは赤味噌だ (なも / なん / のん)

(3) 「ない」の発音：尾張[næ:][nja:] 三河[ne:]

三河地方の人であれば、もちろん「じゃん・だら・りん」ですね。この代表格が「ほだら」ですね。私自身「ほだら」を聞いたときには驚きました。この他にも「行きん」とか「食べりん」とか使いますよね。

以前、NHK から関東地方で使われる「じゃん」がどこから来たのか、取材を受けたことがあります。「じゃん・だら・りん」の「じゃん」ですね。三河地方がこの語形の発生の地なのです。

その一方で、尾張方言には「じゃん・だら・りん」に相当するものはあるでしょうか。では、名古屋を代表する言葉は何でしょうか。今日、名古屋からお越しくくださった方、どなたか教えていただけますか。

○男性 A 「だがや」。

「だがや」、「がや」ですね。そうですね。その通りです。しかし、きっと三河の人も使いますよね？ 「言うが」とか「言うがね」とかです。また、「あっ、ケンちゃ

んだが！」のように「驚き」を表すときに「がや」「がね」「がー」を使います。この「がや」「がね」「がー」にはこのような「驚き」を表す意味があると言われてますが、この他にも相手に自分の意図が伝わっていることを確認する、確認要求表現としての意味機能を持っていたりします。ここで、少しでもこの用法について説明しましょう。ここでは「がや」「がね」「がー」を「ガ」として表します。「ガ」には、(1) 確認要求用法 (2) 情報提供用法があります (朝日 2001)。次にいくつか例を出します。

(1) 確認要求用法として

(4) [タクシーの運転手に行く先を指示して]

あそこに郵便ポストが見えるガ。すぐ先の角を右に曲がってください。

(5) [帰りの遅い夫を非難して]

妻:おそいねー。

夫:しょうがないガ。仕事忙しかったから。

(6) だから言ったガ。あの人には気をつけなさいって。

(7) お前、けがしとるガ。

(8) [開けてみたら中身が空なのを発見して]

なんだ、空っぽだガ。

(2) 情報提供用法として

(9) A: 中日もいまいちだめだな。

B: 何いってるの。がんばってる{ガ/よ/??じゃないか }

(10) A: おい、とないだ、そのマクドで女の子といるのを見たぞ。

B: あ、ただのクラスメートだ{ガ/よ/じゃないか}

(11) お前、社会の窓が開いてる{ガ/よ /じゃないか}

(12) もう、終電だ{ガ/よ/??じゃないか}

このような言い方がありますが、みなさん使いますか？

皆さんが使うかどうかは別として、よく言われるとされるものに「なも」があります。「そうだなも」「大きくなったなも」などです。私自身は使わないのですが、

祖父母の世代は使っていました。もう 30 年くらい前に、祖母の妹が使っていたのを聞いたのが最後です。これに相当する三河方言ですが、西三河方言では「なん」、東三河方言では「のん」となります。なので尾張方言では「ひるげは赤味噌だなんも」、三河方言では「ひるげは赤味噌だなん」「ひるげは赤味噌だのん」となるわけです。

この他は「ない」の発音だけではなく、いわゆる「あ・い」「あ・え」の発音をするときに、「あ・い」の場合であれば、三河方言では「ね(ne:)」に変わったり、尾張方言では「ねあ(næ:)」だったり「にゃ(nja:)」になったりするといわれます。

この特徴は、私の母方言には普通に見られるものです。この中でも「ねあ(næ:)」は英語の勉強をする英語で皆さんが勉強した発音です。これが尾張方言にあるのです。これは、「え」の口をして「あ」と発音します。例えば「ギャップ」とか「キャップ」の「ァ」の部分の母音です。近年、この発音は「や」の音に変わりつつあると言われますし、私も同じような印象を持っています。

次に、尾張方言・三河方言の中で先ほどの例ほど代表的なものではないのですが、取り上げたい表現を示します。

(13) 「しない」：尾張も三河も「シン」

(14) 「いらっしゃる」：尾張：「ゴザル」尾張・三河「ミエル」

(15) 「失礼します」：尾張・三河：「ゴブレーシマス」

(16) 「...をください」尾張「チョーダイ」

西三河「オクレヤス・オクレン」

東三河「オクレンサイ・オクレン」

ここに挙げた例の一つは動詞「する」の打ち消しを表す語形です。つまり共通語でいう「しない」は尾張方言でも三河方言でも「しん」となります。なので、例えば、「あんなゲームもうしないわ」は「あんなゲームもうしんわ」となるわけです。この「しん」は愛知県で広く使われている言い方なので、この語形を東京などで耳にすると「この人、愛知県の出身かも」と思ったりします。

ここで挙げた動作を打ち消す表現のうち、例えば「しない」を「しない」のまま使うか、「しん」「せん」などというのかによって、その使用される地域が決まって

来ます。つまり、否定表現としての「ない」と「ん」は東日本・西日本の方言形であると言えます。実際、これは日本の言葉を二分する、言葉の東西差を表す例として方言学の研究においても広く知られています。

三河地方から尾張地方にかけての地域には、このような言葉の東西分布を形成するような特徴を持つ言語表現があります。基本的にはその境界線を総合すると、尾張地方には西日本方言的な特徴が多く、三河地方に行くと東日本方言的な特徴が多いと言えそうです。もちろん言語表現によっては、愛知県全域で使われている語形が西日本方言的、または東日本方言的な特徴であるものもあります。ですから、愛知県の歴史の中でも、西日本、東日本の方言が衝突してきたと言えます。

なお、愛知大学のある豊橋市の文化は果たして東日本的なのか、西日本的なのかという点になりますと、たんに東日本としてしまうことには様々な意見が出てくる可能性があります。これは、例えばうどんのつゆの色がどうだとか、雑煮のお餅の形、雑煮に入れる具材などなどを挙げたとしても、さまざまな分布がありそれに文化の地域差を見定める視点も必要です。ただ、その一方で愛知県にしかない、かなり独特なものもあります。

ここで挙げた特徴の二つ目と三つ目は愛知県方言としては特色のあるものです。目上の人や年長者に向かって話すとき、つまり敬語を使うときに使われる言い方を扱います。例えば「学校の先生が家庭訪問で生徒の家に来る」という時、先生が「いらっしゃる」という意味で「ミエル」ということは少なくないはずです。また身内の目上（親や親類など）が家に来ることを「ゴザル」また家にいることを「ゴザル」ということがあります。この「ゴザル」は尾張地方の方言形として知られます。私も名古屋にある実家に帰るときに、家でゆっくりしている親に向かって「あ、ござった」ということもあるくらいです。このような方言の敬語は尾張方言の方が三河地方よりも発達していると言われます。

これに関連したものに「失礼します」という意味で、「ゴブレーシマス」という言い方があります。「無礼する」という言い方が由来となり現在でも使用されるものと考えられます。愛知県の方であれば、目上の人に向けて、自分がその場を離れない

といけない場合、「これで失礼します」というところを「これでゴブレーシマス」と言うことがあります。かれこれ 10 年前に岡崎市で敬語の調査をしたことがあります。そこでお世話になった岡崎市役所の女性の職員の方と会ったとき、別れ際に当時国立国語研究所の所長と一緒にいた私たちに向けて、「ここでゴブレーシマス」と言ってくださいました。

この他には、例えば、「何々をください」と言う言い方にも尾張地方では「チョーダイ」「チョーセエ」などのように言います。一方西三河方言では「オクレヤス」「オクレン」、東三河方言では「オクレンサイ」「オクレン」と言います。愛知県と一言で言っても実に様々な方言形が存在していることがわかります。

次は日本語の「語アクセント」についてです。日本語の音は、平仮名で書くと一つ一つの文字に対して、高いイントネーションと低いイントネーションのどちらかで発音されることがおよそ決まっています。その「高さ」「低さ」の組み合わせ方により、語の音色が決まり、語の意味も決まります。それを調べ上げていきますと、一定の傾向が見られます。一方で語とアクセントとの関係に見られる必然性についてはなかなか説明ができないのですが、他方でアクセントの形にはいくつかのタイプに止まるものだと言われます。その意味で日本語のアクセントには規則が決まっています。

この規則によると、愛知県方言のアクセントは、東京で使われるアクセントとどのような関係なのか、また大阪・京都を中心とする京阪地域のアクセントの形とどのような対応関係があるのか、議論が行われます。

愛知県は、基本的には「東京式アクセント」と言われます。基本的には、愛知県方言の語アクセントは、東京と大きく変わりません。ただ、同じでもありません。ですから、今、みなさんが特に言葉遣いに気を配らずに、東京で友人と話していたら、周りの人には「あっ、自分たちと違うかも」というような印象を与えてしまうので、その意味では覚悟をされた方がいいように思います。

(6)アクセント：形容詞「赤い」

尾張「○●○」三河「○●●」東京「○●●」

擬声語・擬態語「クヨクヨ」

尾張「○●○○」三河・東京「●○○○」

代名詞「どちら」「どなた」「どんな」

尾張・三河「○●●」東京「●○○」

上の例は、尾張地方・三河地方の語アクセントを東京方言のアクセントと対照させたものです。ここでは語アクセントについて、黒い丸印が高いイントネーション、この白色の丸印が低いイントネーションで実現されるとします。ここでは、いずれも、尾張地方・三河地方・東京でそれぞれ実現形が異なるものです。

例えば、「赤い」という形容詞については、三河方言と東京方言では「あかい(○●●)」と言いますが、尾張方言では「あかい(○●○)」と言います。これは尾張方言と三河方言で語アクセントが異なります。この語については、東京方言と同じアクセントは三河方言です。なので、三河方言は日本の標準語の礎をなつたという方はどうぞ喜んでください。

次にいわゆる「オノマトペ(擬声語・擬態語)」の例である「クヨクヨする」という言葉についてです。三河方言と東京方言の語アクセントでは「クヨクヨ(●○○○)」となります。尾張方言では「クヨクヨ(○●○○)」となります。さっきは三河地方の語アクセントが東京と同じでしたが、この例では尾張方言の語アクセントが東京方言と同じになります。

3番目も愛知県方言ならではの特徴です。ここでは疑問詞「どちら」「どなた」「どんな」ですが、この語アクセントはどうなるのでしょうか。愛知県においては尾張地方でも三河地方でも共通して、「どちら(○●●)」「どなた(○●●)」「どんな(○●●)」というように、1拍目が低くて2拍目が高くなります。東京では「どちら(●○○)」「どなた(●○○)」「どんな(●○○)」となります。「どちらさんですか?」と言いますと、「どちら(●○○)の方ですか」か「どちら(○●●)ですか」とでは聞こ

え方が違うはずですが。もちろん「どちら(○●●)」が愛知県の方言における語アクセントだといわれます。この例は私としては、愛知県の方にはピンときてほしいのですが、いかがでしょうか。

この他に三河方言で知られている例をいくつかご紹介したいと思います。最初にあげるべきは、「方弁」という言い方です。これは「方言」という意味で使います。これは三河地方の人から聞いたのですが、方言のことを「方弁」と言う人が、比較的いるように感じまして、それは、例えば、三河弁の「弁」が「方言」にひっついていのか、あるいは「方言」という単語を聞き間違えて「方弁」と覚えているのかどっちかというものです。愛知県の方言を研究している先生方によると、西三河方言でも東三河方言でも使用が認められるようです。ただ、これを使うのは高年層の方に限定されるものなので、若年層の間では使われないようです。

次が「にぎやかい」や「じょうぶい」のような言葉です。これらは、尾張方言でも使う語形ではあります。いずれも、「にぎやかだ」「じょうぶだ」の「だ」を「い」に交替させるものです。いわゆる形容動詞を形容詞として使う例だと思えます。

標準語を使っているのか

さて、少し話の内容を変えたいと思います。ここでは皆さんにとっての「標準語」についておたずねします。まずは、皆さんにとっての定義で構いません。皆さんが使っている言葉は、標準語ですか？そうお考えの方、どの程度、標準語を話していると思えますか。

私のこれまでの話をお聞きになると、「いや、自分は標準語とは違うかも…」と思うかもしれません。なので、この時点では私の言ったことはどうか忘れてください。

「日常生活で標準語を使っていますか？」という間に「使っていると思う」という方は手を挙げてください。あまり深く考えることはありません。(挙手) 皆さん、周りをよく見てください。決して少なくはありません。東京都出身の松田先生にお尋ねしたいのですが、日常生活で標準語を使っていますか？

○松田 はい。

ありがとうございます。実は東京都出身の松田先生の「はい」と、皆さんの「はい」との意味には、大きく異なります。東京都出身の人は、「標準語は使っていません」と多くの場合答えますが、実はその判断基準は愛知県に住む人と比べると厳しいものがあります。おそらく、東京都の人の使う「普段の言葉」は愛知県の人からすると極めて標準語的なものがあります。

皆さんにとっての方言と標準語。仮に、皆さんご自身で評価をしてほしいのですが、方言と標準語のうち、どちらを多く使っていると思いますか。「標準語のほうを多く使っていると思う」という人は手を挙げてください。(挙手) 「いやいや、方言だよ」という人は手を挙げてください。(挙手) ありがとうございます。方言という人、頑張りましょう。私も頑張ります。

ちなみに、東京で地元の人にあったとしましょう。なので、松田先生のような東京の人に東京で会うという意味ではありません。例えば皆さんが東京で仕事をしていて2カ月くらい経ったときに、地元の友達から連絡がありました。「おう、今から週末東京に行くんだけど、会わない?」「うわあ、久しぶり。会いましょう」ということになって東京駅の新幹線のホームで会ったとします。そこで当然話をすると思うのですが、そのときに、「方言で話すと思う人」は手を挙げてください。(挙手) 東京ですよ、豊橋駅ではありません。「よくわからない」という人はいますか。(挙手) 素直でいいですね、ありがとうございます。経験がないとか、話したことはあるけれども考えたこともないという人がいるかもしれません。今度、東京で地元の人に会うことがあれば考えてみてください。

1年ほど前になりますが、中学校の同級生と東京で会いました。その人とどのよう話したか全てを思い出すのは難しいですが、たしか。私は名古屋方言で話した気がします。ただ、周りの耳も目もありますから、どこまで名古屋にいたときと同じように話したかはわかりません。

青森県で同じ質問をしますと、おそらく、答えは大きく異なると思います。弘前の友達と弘前で話をするとすれば、「方言で話す」と答えるのはほぼ100パーセントになると思います。続けて「東京で話すとしたらどうなりますか?」と聞くと、多

くが「共通語で話す」と答えるはず。「どうして共通語で話すのか?」と聞きま
すと、「いやいや、東京だから…。東京で話すんだから共通語でしょう」と言うわけ
です。

この感覚は、おそらく愛知県民の持っている意識とは異なると思います。みなさ
んの中には、「いや、私は普段から標準語を話してると思っているんだから、東京に
行っても標準語のままじゃない」とお考えになるのが普通だと思います。山手線に
乗っていると、『るるぶ東京』を持った観光客が大きな声で話をしているのが聞こえ
てきます。東京にいるのだから全員、標準語で話していると思いきや、方言を使う
人がむしろ多いことに気づかされます。東北から上京した人が、田舎が恋しくなっ
た結果、東北弁を聞きに上野駅に出かけていくようなものです。

標準語使用意識の強い愛知県人

実は、普段の生活では方言を主に使うという人が少なくないかもしれません。し
かしながら現実的には、愛知県の人間であれば、おそらく標準語意識は強いと思
います。おそらく高校生くらいまでの年齢の人であれば、自分の言葉に方言を見つ
けることが難しいと感じていらっしゃる人が少なくないはず。おそらく、よそに
出て初めて、自分の使っている言葉に違和感を覚えるかもしれません。もし、それ
をやりたければ、ここからだと遠いですが、東海道線に乗って大垣駅くらいまで行
きますと、自分たちの住んでいる言葉と大垣の言葉が違うことが認識できると思
います。

私が20年程前、大阪の大学に通っていたときに、名古屋から大阪へ戻るときに
普通電車に乗っていました。名古屋から京都に近づいていくにつれ言葉が変わって
いきます。「ああ、何か言葉が違うな」と思うのと同時に、果たして自分を標準語と
同じとみなす地域はどこまでなのかと、考えずにはいられませんでした。もちろん
これは地元を離れなければわからない感覚でもあります。もちろん、地元に住んで
いれば、自分たちがずっと標準語を使ってきたんだからと思うのも当然です。

東京の標準語と愛知の標準語

スライドには「東京の標準語と愛知の標準語」と書きました。例えば、「寝れる」「食べれる」「信じれる」「考えれる」という動作を示す言葉です。「皆さん、使いますか？ 使いませんか?」「寝れる」「やっとな寝れる」と言えますか。「やっとな食べれる」は、「まあ、腹減ってまっていかんわ」という感じで、「食べれるな」という感じですね。では、これはどうですか。「信じれる」「あの人の言うことだで信じれるわ」、これはオーケーでしょうか。「信じられるわ」と言うのと、どちらが自然ですか。「信じれる」ですか、「信じられる」ですか。東京で「信じれる」と言いますと、おそらく多くの東京の方が困惑します。

これらはいずれも「ら抜き」言葉の例ですが、「ら抜き」言葉は、愛知県の方であれば、旧来から使ってきた言葉です。ただ、「信じれる」「考えれる」となると、少し話が変わります。「考えれる」と言いますと、言えたり、言えなかったりしますが、おそらく、この三河地方であればこの言い方に問題を感じない人がいるようにも思うのですが、いかがでしょうか。

「考えれる」と言えそうですか。「いや、言えるよ」と思う人はいらっしゃいますか。(挙手) 挙がりました。一人でも手が挙げればいいです。「いや、いえない。『考えられる』『信じられる』でしょう」という人はいますか。(挙手) 「よくわからない」という人はいますか。

では「書ける」と「書ける」、 「行ける」と「行ける」、 「飲める」と「飲める」はどうでしょうか。この「飲める」「行ける」「書ける」と、皆さんは言えますか。数人の方は、ちゃんと質問の直後に反応してくださっていますが…。ちなみに「言えるものがある」という人はいますか。いや、どなたもいならっしゃらないのですね。これらは言わない、ということも含めて皆さん、気づいたら教えてください。ただ、地域によってはこれらは「レ足す」言葉とって、「書くことができる」の意味での「書ける」の「け」と「る」の間に「レ」をいれてしまう現象のことを指します。

気づかない方言

次に愛知県の方言における「気づかない方言」を取り上げます。これは、実は方言だと気づかずに使ってしまう方言です。なので、これを他地域で使っていると通じないことに気づきます。これからいくつか例を出していきますので、一緒に考えたいと思います。まずは図1をご覧ください。

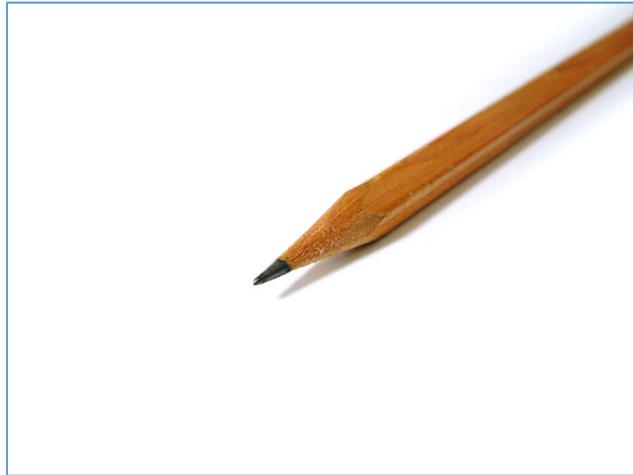


図1 とがった鉛筆を指すオノマトペ

図1のように「鉛筆をこのようにすることをどうすると言いますか」という問いに対して、「トキントキンにする」と言いますが、皆さんは言いますか。「聞いたことはある。使う」という感じの人は手を挙げてください。(挙手) ありがとうございます。

実は、東京女子大学の篠崎晃一先生が「出身地バレ語」(『出身地(イナカ)がわかる!気づかない方言』)という気づかない方言のことをまとめた本を出していらっしゃいます。愛知県民のバレ語は何かと伺いますと、これです。「トキントキンにする」という言葉です。思ったほど反応があるわけではないのが残念ですが。自分は使っていないけれども、家族は使っているとか、名古屋の友人が使っているということでもあれば、うれしいです。次は教室場面での出来事です(図2)。



図2 授業と授業の間にある休み時間のこと

次です。「学校の授業と授業の間にある休み時間のことをなんと言いますか」、これは「何時間目の放課」と言いませんか。そうですね。みなさん、言っていましたよね。これは絶対に東京で使わないでください。意味が変わります。おそらく「放課」と言いますと、学校が終わった後のことだと思います。この「放課」も愛知県で使われる言い方です。次の例をみてみましょう（図3）



図3 コーヒーに入れるミルクのこと

「コーヒーに入れるミルクのことをなんと言いますか」、答えは「フレッシュ」です。皆さん、もちろん言いますよね？ ちなみに、私の家の近くにあるコメダ珈琲店に行くとなんが起ころか、皆さん、ご存じですか？ アイスコーヒーを近くの喫茶店で

頼みますと、「ガムシロップ」とか、「ガムシロ」と言いますよね。そのコメダ珈琲店では、そうは言わないんです。「甘くするものを入れてもよろしいですか?」と言われます。「甘くするものを入れるってなんだ?」と思いました。これは方言なのかどうかもわかりません。おそらく会社のマニュアルであると思いますが、「甘くするものを入れる」という表現はおかしい気がします。では、次の例を見ましょう(図4)



図4 「疲れた」ことを「エライ」というか

ここでは「『疲れた』ことをここではどう言いますか?」という例です。「エライ」「エレエ」と言います。この「疲れた」と言う意味での「エライ」を知らずにこの語形を聞くとなんだか自分が偉くなった気持ちにさせます。これは意味が違うわけです。ちなみに、「疲れた」と言う言い方には様々な語形が存在しています。例えば、北海道や東北などに行くと、「疲れた」と言う意味で「こわい」が使われます。別に恐ろしいと言う意味ではなく、「疲れた」と言う意味になるんです。あるとき、札幌で調査をさせてもらったお年寄りの方が、休憩から戻ってきて椅子に座った途端、「アーコワッ」と言っているのを思い出します。「疲れた」という言い方には実に様々な表現があるのですね。では、次の例を見てみたいと思います。今度は、教室で起こる場面で使われることばです。みなさん使いますでしょうか(図5)



図5 机を運ぶこと

「教室の掃除などで、机を運ぶことをどうすると言いますか?」と、「机をつる」と言います。「ツル」は持ち上げる動作だけではなく、一定の空間の移動も意味します。なので、「はい、机つって」というと、机を前から後ろに、後ろから前に運ぶと言う意味になります。皆さんの中で「机をツル」と「言ったことがある」という人はどれだけいますか。(挙手) 「言わない、聞いたことがない」という人はいますか。(挙手) なるほどこれは尾張方言の特徴かもしれません。では、次の図です(図6)

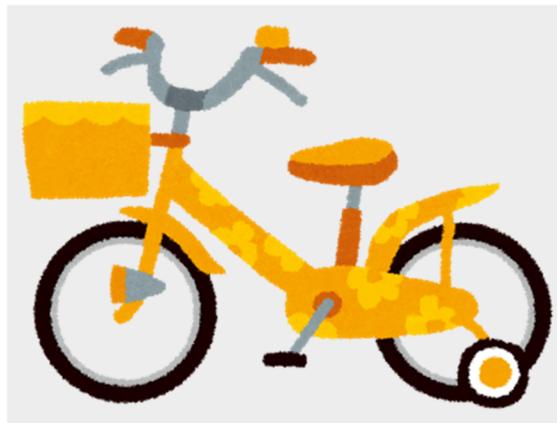


図6 自転車の補助輪

あと、これです。補助輪のことを「ワッカ(輪っか)」と言いますが、これはあまり拒否感がないですね。これも愛知県の方言としてはよく知られている語形です。ち

なみに自転車のことを「ケッタ（またはケッタマシーン）」というのも尾張方言では見られます。ただし、最近の若い人たちは「ケッタ」ではなく「チャリ」を好むと聞いたこともあります。みなさんいかがですか？

方言を役割・意味を改めて考える

ここまで様々な例を取り上げました。いかがでしたでしょうか。方言の定義は、さまざまあります。なので、ここで申し上げるのが全てではありません。ただ、日常生活で扱っている言葉を方言と仮に定義するとしますと、先ほど申し上げてきた言葉は、日常生活で使って来ていることばなので、「方言」とみなしていいと思います。もちろん、これまで方言とされてきたものはたくさんありますが、それが使われなくなってきている現状があります。それを踏まえると、これまでの方言を引き継ぐものとして、このような言葉が存在するようにも感じます。

また、この方言の話にもつながりますが、東京にも気づかない方言があります。東京の人は、大概「普通のことば＝標準語を使っている」と言います。ただし、東京で生活していると耳にする言葉があります。例えば、「片付ける」という意味で「かたす」を彼らは使うんです。これは国語辞典にも載っている方言形です。この他にも勧誘表現としての「べー」や「煩わしい」という意味での「ウザッタイ」などがあります。なお、スライドには、「東京に住む人は標準語を使っていると疑わない」と書きました。直接的に「標準語を使っているか」と聞くと「使ってはいない」と答えるのですが、彼らの気持ちとしては、標準語を「使っている」ことを前提にしつつ、きちんと標準語を使いこなせない可能性を危惧しているのが理由であることを忘れてはなりません。これは、残念ながら愛知県民の意識構造とは異なります。

愛知県のことばのこれから

趣旨説明にもありましたが、「言葉」というのは変わっていくものです。どのように変わっていくのかは、実際、言葉が変わってからでないとわかりません。また、言葉が変わらない、ということはありません。言葉が変わっていなければ、例えば、

『源氏物語』や『万葉集』の時代の日本語を現在でも使用しているはずですが。これらの作品を原典では読めないことだったり、古語辞典が存在する以上、言葉が変わっているということになります。言葉はこれからも変化しつづけるものです。その変わり方を見つめていくのが、われわれ研究者のミッションだと考えます。

「方言がなくなる」といいます。もちろん特定の方言形はなくなっていくわけですが、根本的にはなくなりません。もちろん、今後一層標準語使用意識が強くなっていきます。ただ、先ほど申しましたように、気づかないような方言を標準語と思い込んでいたわけですし、愛知県の方言が体系的にも、そこまで標準語と一緒にできないということを考え合わせると、愛知県の言葉自体は、今後も形を変えつつ生き続けていくのではないかと考えます。

ですから、「地域標準語 vs. 地域方言」と書きましたが、これは皆さんのなかの言葉に対する捉え方と深く関わっていきますので、もし、よろしければ、皆さんと、これからも考えを深めていければうれしいところです。ご清聴、ありがとうございました。

【参考文献】

朝日祥之（2001）

「名古屋市方言における文末詞『ガ』」 阪大社会言語学研究ノート 2

江端義夫編 平山輝男編集代表（2013）

『日本のことばシリーズ 23 愛知県のことば』 明治書院

日野資純・飯豊毅一・佐藤亮一編（1998）

『講座方言学 6 中部地方の方言』 国書刊行会

篠崎晃一・毎日新聞社編（2008）

『出身地（イナカ）がわかる！ 気づかない方言』 毎日新聞社

方言とアイデンティティー ―“自分らしさ”の拠り所としての方言―

高野 照司(北星学園大学)

「アイデンティティー」という概念

札幌市の北星学園大学で教えています高野照司と申します。今日は、「方言とアイデンティティー ～“自分らしさ”の拠り所としての方言」というタイトルでお話ししたいと思います。

そこで、皆さん。この「アイデンティティー」という言葉にどの程度、馴染みがおありでしょうか。ちょっとわかりづらいといえますか、昨今、私たちの社会のグローバル化がどんどん進み、日常生活のなかでも「アイデンティティー」という言葉が以前にも増して、より頻繁に使われるようになってきている気がします。私も講義などで、数年前までは、「アイデンティティー」という言葉の意味がなかなか難しく、学生にはあまり使わないようにしていましたが、最近は「アイデンティティー」と言っても、ちゃんと理解してくれるような、「アイデンティティー」という借用語が、カタカナ語として日本語に馴染んできているような気がします。

ただ一方で、使い方や解釈が人それぞれ違うといえますか、ちょっと漠然とした曖昧な言葉であることも、この「アイデンティティー」という概念の問題かとも思います。一応、これは軸になる概念ですから、少し学問的におさえておきたいということで、言語学や方言学ではなく、その本元であろう社会心理学の文献などを紐解いてみました。

社会心理学の分野では、「アイデンティティー」というカタカナ語は、生半可には使わないようで、「自己観」という言葉で表現されています。文献を読んでいきますと、自分が思っていたよりも、もっと複雑で多義性があり、多重構造を備えた概念で、どうやら2系統の「自己観」、つまり、西洋的と言われる「相互独立的自己観」と東洋的(アジア的)と言われる「相互協調的自己観」があるようです(高田他 1996)。また、異文化間差異だけでなく、同じ文化内でもその「傾向性」に揺れがあるらし

く、日本人であれば、皆同じアイデンティティーかといいますとそうではなく、少し西洋志向のアイデンティティーを持つ人がいる。例えば、「個人は他者から分離しており、他者から独立して独自性を主張することが大事だ」と思っている自分を意識している人がいるということです。これはよく「自分の主義主張をしっかりと持ち、自分の言いたいことははっきりと言うべきだ」という“典型的な”西洋人などの考え方としてよく言及されますが、そのような個別独立的な、比較的固定的なアイデンティティーです。つまり、「誰が何と言おうと、私はしっかりと自分の意見を持っている」というアイデンティティーの持ち方です。

世間一般に私たちが思うアイデンティティーとは、まさしくこれに相当するだろうと思っていたのですが、別な傾向性もあるようで、それは東洋(アジア)的なアイデンティティーで、「相互協調的アイデンティティー(自己観)」です。「個人は互いに結び付いていて個別的ではなく、さまざまな人間関係のなかにおいて、そのなかで自己がつけられていく」という意識の持ち方です。つまり、相手が誰かによって、自分自身が少し揺れ動くということです。自分のアイデンティティーみたいなものを確固として常に持ち、それを基にことばを使って対人関係を築いていくのではなく、多少自分も柔軟に構え、相手が誰かによって自分自身が変わりゆく可能性もあるという、もう少し複雑で流動的な概念であることがわかってきます。

先ほどから申し上げているように、例えば、日本人であっても、人それぞれ少し西洋寄りのアイデンティティーの方に傾いている頑固な方がいたり、もう少し柔軟な考え方を生きている人がいたりします。ですから、一種、連続性を備えた概念でもあります。どちらか一方に属するというのではなく、異文化間で、あるいは一文化内においても、どちらかが少し優勢だ(あるいは、優勢でない)という捉え方をするとということがわかってきました。

ことばとアイデンティティー

私の専門である社会言語学のなかで、「ことば」と「アイデンティティー」の密接な関係を解き明かそうという試みはこれまでなくはないですが、非常に扱いが難し

いといいますか、まだまだ議論が熟していないというのが現状です。

出だしは、おそらくロバート・レペイジというイギリスの社会言語学者が、1960年代に「Acts of Identity」、敢えて日本語にするならば、「アイデンティティー（表示）行為」、言語は自分のアイデンティティー（自己観）を表示・表現・主張するための非常に大切な道具である、重要な手段であるということを言いました(Le Page & Tabouret-Keller 1985)。

どういうことかと言いますと、好きな人や尊敬する人のように自分もなりたい、そういう人になりたいという欲求があれば、そういう人と同じような話し方をしていく、そういう人たちに近づこうと思ひ、おそらくは無意識的に、時には意識的にそうすることもあるかもしれませんが、ほとんどが無意識的に同じようなことば遣いになっていくということです。ただし、それは必ずしも恒久的にはではなく、そのときの気持ちの持ち方で、瞬間瞬間で異なる場合もあります。ある時に、素晴らしい人と出会い、その人にすごく影響を受けて、その人と話しづりが段々似ていくような人がいたり、アイデンティティーの在り方と同様に、そこから影響を受けることば遣いもしばしば流動的で、決して固定化されたものではありません。

ですから、俗に言うところの「仲間意識」「ある人、ある集団への忠誠心」みたいなものが、「アイデンティティー」とことばの関連を解きほぐしていくなかで重要な意味を持ちます。例えば、いつの時代も若者は「若者ことば」を創造します。やはり、仲間と同じように集団をもり立てていきたい、集団のなかに自分がいることを確認したいという欲求から、「若者ことば」を創造していくわけですから、若者ことばを作るという行為も「アイデンティティー行為」ということになります。

そうなりますと、対人関係の構築に必須な「ことば」と「アイデンティティー」の関係は、どちらかというと他者依存的で相対的に定まるものであり、決して絶対的に固定化されるような代物ではない。その関係は、固定的、静的なものではなく、流動的で可変的だということになります。ことば遣いもすごく揺れますし、変わります。アイデンティティー自体もそんなことばと同様、状況に応じてすごく揺れ動くものだということになります。

ことばとアイデンティティー：先駆的研究

そうなりますと、「アイデンティティー」と「ことば」の関係を捉えることは、なかなか難しいことになります。残念ながら、これまで、研究の数は本当に少ないのが現状で、私自身も興味を持ち、やり始めましたのはいいのですが、なかなか一筋縄ではいかないということに徐々に気づき始めました。

過去の研究はそんなに多くありませんが、例としていくつか先駆的な研究を紹介させていただきます。海外では、イギリスのジェニー・チェシャー(Jenny L. Cheshire)という研究者が、イングランドのレディング市にある、あまり治安のよろしくない、無職の若者がたくさん時間を持て余してたむろしているような広場をフィールドにして調査を行いました。ただ彼女は、「アイデンティティー」そのものを調査したり計ったわけではなく、各被験者がどれだけ土着文化に根ざしているか、つまり、その地域の文化に生活が根ざしているかということを示す「土着文化指数」と呼ばれる指標に換え、その指標とことばの使用上の揺れとの相関関係を見極めていきました(Cheshire 1982)。

どのような質問をして指標にしていたのかと言いますと、すぐく犯罪率が高くて治安のよくない地域でしたので、「ケンカは好きですか」「ケンカが強いのは誰ですか」というような質問で調査をし、後者の質問については、名前がたくさん挙がってきた人にポイントがたくさん加算されるといった具合です。被験者の犯罪歴や「凶器を持ち歩いているか」なども指標に変換して、どれだけその地域の土着文化に、各被験者の生活が密着しているかということを示す指標としました。

そして、言語使用を見てみますと、例えば、非標準的な用法となる“you was”とか“we does”。それは“you was”ではなく、“you were”ですよね。“we does”ではなく、“we do”ですね。英文法に詳しい日本人からしますと、「何、これ？」という非文法的な英語を、実は社会階層によってネイティブ・スピーカーも使うわけですが、そうした非標準的な用法との正の相関関係が明らかになりました。つまり、土着文化に根ざしている生活をしていけばいるほど、このような非標準的な、その土地固有の用法を使うことがわかってきました。

もう一度言いますと、「アイデンティティー」そのものを調査しているというよりは、「土着性の度合い」です。土着性とは、アイデンティティーをつくり上げるうえで、とても重要な要因ですから、それを指数にして、表現して、ことばとの密接な関わりを見たということです。

一方、日本国内に目を向けますと、談話研究だとそれなりにあるのですが、社会言語学、ことばのバリエーションや変化の研究、そして方言学のなかではほとんど見受けられません。そんな中、ダニエル・ロング氏は、地方から京阪地区に進学をしてくる大学生に、「どれだけ地元の方言を維持していますか、使い続けていますか」という質問を投げかけて、被験者が「自分のお国訛りに対して、どれだけ誇りを持っているか」を指標にし、方言使用との相関関係を調査しました。自分のお国訛りにどれだけ誇りを抱いているのか。それもまたアイデンティティーの重要な構成要素の一つです。自分の言葉に誇りを持っているのかどうかということ。そして、出てきた結果としては、自分の出身地方言に強い誇りを持っていればいるほど、自分の出身地の方言を、京都や大阪に転居しても使い続けることがわかりました(ロング 1990)。

以上のように、「アイデンティティー」と「ことば」の関係について、そんなに多くの研究成果の蓄積はありませんが、一般論として、地元への愛着、忠誠心、誇り、地元根ざした社会生活は、当然、地元志向のアイデンティティーが構築されていき、その土地固有の方言を維持したり、使用を促進したりすると言えるわけです。これまでの社会言語学的研究のなかで、そうした関係性が一般論と言えるかと思えます。

北海道方言と道産子の方言意識

私がこれまで行ってきた、まだまだ発展途上の研究ですが、今日は、わかったところまでをお話したいと思えます。

私のフィールドは北海道です。北海道の方言は、共通語化が完了したと思われてしまったのか、1980年代頃までは、国立国語研究所が北海道の方言の共通語化を熱

心に、大規模に研究していましたが、1990年代あたりから、ぱったりとやらなくなってしまいました。方言の研究者からすると、「北海道のことばを研究しても方言色が薄いから、たいして面白くないよね」といった感じでしょうか。確かに方言色は薄く、東北を飛び越えて関東の言葉にかなり近いというふうに過去の方言調査では記述されていたりします（真田・ロング 1997）。

北海道方言話者、特に北海道で生まれ育った人間のことを道産子といますが、私も道産子で、特に外住歴のない道産子は、「自分が方言話者だ」という自覚がほとんどありません。多くの道産子は自分が共通語話者だと思っています。

ちょうど1カ月ほど前でしょうか。北海道方言が広く全国メディアで話題になりました。普段、めったに話題にされることのない北海道方言が注目されました。そうです、「そだねー」の話です。これを受けて、平昌オリンピック・カーリング日本女子代表チームの藤澤五月選手は、とあるニュースのインタビューで、「自分が方言を話すとは衝撃的出来事だった」とおっしゃっていました。同じ道産子として、やはりそんな感覚だろうなと思いました。

図1 道産子の方言・共通語意識（佐藤・米田 1999より）

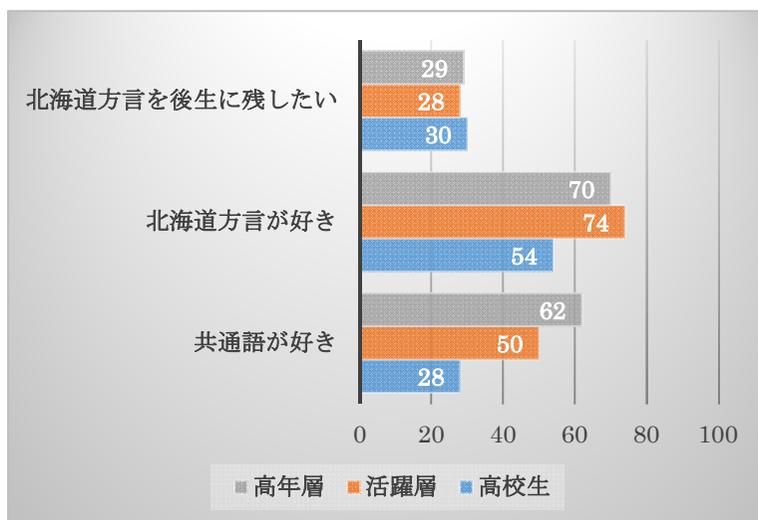


図1をご覧くださいと、道産子の方言に対する態度や考え方は、残念ながら、すごく“薄情”なことが分かります。「北海道方言を後世に残したい」とは、ほとんどの

人々は思っていないといえますか、どの世代でも3割以下であることが分かります。先ほどから申し上げているように、自分のことばを方言だとはあまり思っていませんから関心も薄いのでしょう。方言話者であれば、共通語に憧れたり、好きだと思おうのかもしれませんが、若い世代に行くほど、「共通語が好き」な人たちも3割弱ぐらいしかいません。一方、「北海道方言が好きか」という問いに対しては、「好き」が多数派です。これは、道産子は概して北海道に住むことを好み、うちの大学の学生なんか就職で道外には出たがらない、道内志向が圧倒的に強いので、その辺りの嗜好と合致したものだろうと思います。いずれにせよ、日本国内の他地域と比べ、郷土のことば（方言）に対する愛着は極めて薄い土地柄であるという調査結果がこれまで提示されています（佐藤・米田 1999）。

道産子は北海道方言を残したいと思っているわけではなく、かといって、東京の人たちようにしゃべりたいという話でもありません。そうすると、「ことばとアイデンティティー」を研究しようと思っても、北海道方言はあまりいい調査対象にはならないということになってしまいますね。しかし、そんな土地でこれまで研究をしてきて、意外にそうでもないということが分かってきましたので、今日はその辺りのお話をさせていただこうと思います。

北海道方言の特徴

ここで少しだけ、北海道方言の特徴のお話です。「手袋をしたり、はめたりする」ことを「手袋をハク」と言います。語彙の面では、「(ごみを)捨てる」ことを「ナゲル」と言ったり、「冷たい」ことを「シャッコイ」と言ったりします。私の子どもはまだ小さいのですが、「くすぐったい」ことを「コチョバイ、コチョバイ」と言っていますので、これは若い世代にもまだまだ残存している北海道方言の一つです。

文法面では、「勉強しろ」ではなくて「勉強スレ」とか「勉強シレ」などと言います。それを我が子に言ってみたところ、「何それ？」と聞き返されましたので、これは廃れてきている方言だろうと推察できます。

音声のアクセント面では、例えば、「セナカがかゆい」の「セナカ」は○●●▼のよ

うに平板型アクセントが共通語式ですが、北海道方言では「セナカが」(○●○▽)というように中高(なかだか)になります。それから、「スガタが美しい」の「スガタ」は●○○▽、「カラスが鳴く」の「カラス」も●○○▽と頭高が共通語式ですが、北海道方言では、「スガタが」(○●○▽)とか「カラス」(○●○▽)というように中高が特徴的です。他に二拍名詞では、「紙を切る」の「カミを」は○●▽で尾高が共通語式ですが、北海道方言だと「紙を」(○●▽)のように平板型になったりします。ということで、起伏式と平板式が、共通語と微妙にずれていて、話者自身でも自覚はほとんどありません。

図2 札幌市内で見られる「方言的風景」



図2は地下鉄のドアの貼り紙広告です。「ジョブキタ」という大学生向けの就職説明会で、「見ささる、聞かさる、言わさる」とあります。「えっ、何だ、こりゃ!？」と、初めて見た時はちょっと嬉しくなって、即座に写真を撮りましたが、長いことこうして貼られているように思います。

「～さる」という言い回しは、北海道で話される表現方法の一つで、「意図せずに自然とそうになってしまう」という微妙なニュアンスを醸し出します。ここでは、就職説明会があまりにも面白そうだから、思わず「見ささってしまう」、面白いことを言っているから、思わず「聞かさってしまう」、聞きたくなくても思わず「聞かさってしまう」。どうしても知りたくなって、何か言いたくなって、思わず「言わさってしまう」というふうに、北海道では、比較的若い世代でもいまだに根強く使われている表現です。このようなものが、街角の所々にあつたりするのを目にすることで、

「ああ、そうか、自分は方言を話すんだなあ」と自覚する程度の、日頃の方言意識の希薄さです。

それでも脅かされる道産子の方言アイデンティティー

しかし、そんな方言意識の希薄な道産子も、ことばに絡んで自己のアイデンティティーが脅かされるといいますか、窮地に立たされたという経験談が、教え子などからしばしば寄せられます。

例えば、観光客にも人気の高い函館を例に挙げてみます。函館は北海道の中でもかなり方言色の濃い、通称「浜言葉」が使われている地域でして、結構、アクセントの強い北海道方言が話されています。ただ、函館の地元の、特に外住歴のない若者は、自分が方言を話しているとは全く思っていませんから、例えば、進学で札幌へ来て、「サンダルを買ったんだ」、「サンダル(●○○○)」と頭高のアクセントで言ったら、札幌出身のクラスメートから「なにその言い方？」と言われたと。札幌や、おそらく東京でも、「サンダル(○●●●)」と平板式アクセントで言うようですが、「『サンダル(●○○○)、買ったんさ、昨日』ってなんか変なの?」「自分の言葉って何か変ですか?先生」と尋ねてきたりするわけです。私の「社会言語学概論」という講義を聴いて、函館の言葉が方言だということを生まれて初めて、二十歳になってようやく知ったそうです。大人になってから、自分が話すことばとの関連で、こういったある意味、自分のアイデンティティーを脅かされる出来事って結構あります。

さらには、札幌という大都市で生まれ育った学生の話ですが、就職活動で東京にしばらく滞在していたときに、東京出身の仲間ができて、「あのさあ、昨日さあ、私さあ、友達とさあ、ディズニーランド行ったんだよね」などと話していたところ、「なんで、『さあさあ、さあさあ、さあさあ』って言うの?」と、東京出身者に言われて、なにかすごく肩身が狭くて、「自分は田舎くさいんだなあ」と感じてしまったという苦い経験談を話してくれました。

最後にもう一例。東京の大学に進学した、とある田舎町出身の高校生は、何気なく普段の口調で話していたところ、たまたま近くにいた東京出身の知り合いから「あ

れ? どこ出身? 田舎出身なんでしょ?」とぼっちり言い当てられました。これは私自身の話なのですが、それ以降、なんか寡黙になってしまった自分がおりました。このようなショックな出来事は、実はカーリングの藤澤選手だけではなく、ごく普通の人々の日常生活のなかで、成長して大人になってからもあるわけです。それだけ自分の話す方言（ことば）に対する意識が薄いのです。ただ、今日のグローバル化していく社会のなかで、余所の人と接する機会がどんどん増えることによって、こうした自分のアイデンティティを問うてみるような出来事に遭遇するわけです。

もし、北海道方言に少しでもご興味がおありでしたら、大修館書店の「WEB 国語教室」(https://www.taishukan.co.jp/kokugo/webkoku/relay002_13.html)に、私が書かせていただいた北海道方言の特集があります。そちらにいらっしゃる二階堂先生も福岡方言についてお書きになっています。無料ですから大修館書店のウェブサイトへ行って、このページを見ていただいて、少しでも北海道方言のことに興味を持って読んでいただければ幸いです。

土着アイデンティティと方言使用： 実地調査による検証

出身地に根ざした、自分は誰かというアイデンティティをここでは「土着アイデンティティ」と呼ぼうと思いますが、それが脅威にさらされたような状況で、私たちの母方言はどのような役割を果たすのだろうかということに興味を持ち、実際にフィールドに入って調査をしてみました。¹ そのフィールドとは、ニセコ町(北海道後志管内)でして、今や全国的に有名な町です(図3)。「蝦夷富士」と呼ばれる羊蹄山(ようていざん)を背後に控えた、小さなこぢんまりとした、人口は5千人くらいの田舎町です(図4)。

¹ 高野照司(研究代表者)受給の科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究(No.21652040,2009年~2011年度)『急速なグローバリゼーションによる地域方言の変容と話者心理に関する社会言語学的研究』,及び,科学研究費補助金・基盤研究(No.26370496,2014~2017年度)『グローバル化する社会で変容するアイデンティティと言語変異の因果関係の理論モデル構築』からの助成により行われた。

図3 北海道後志管内ニセコ町



図4 ニセコ町市街地



なぜニセコ町かといいますと、今や人口も 5,000 名より多くなっていると思いますが、世界的に注目されているスキーリゾート地で、世界一のパウダースノーを滑ることができるともいわれており、外客誘致がどんどん進み、近年は土地や水資源

までも買い取るために、外国人や外国企業が押し寄せています。数年前は、地価高騰率日本一ということで話題になったり、最近ものすごく様変わりしてきている町なんです。

これはニセコ地区で最も人気のあるグランヒラフスキー場の中心を通っている「ひらふ坂」の写真（図5）ですが、10数年前までは古めのホテルや民宿などが並んでいましたが、今や、駐車場になったり、ゲレンデに変わってしまったり、大きな様変わりをしています。

図5 ひらふ坂 昔と今

2010年撮影

2016年撮影

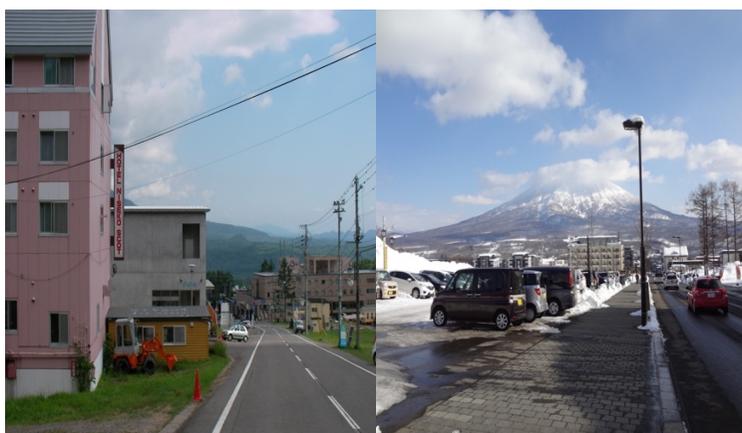


図6 グローバル化する「ひらふ坂」の今





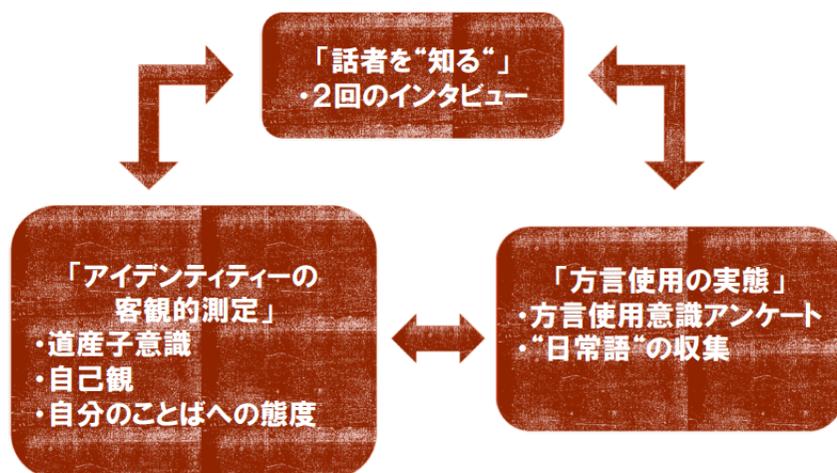
他にも長期滞在型のコンドミニウムがあったり、英語看板のお店が建ち並んでいたり、あたかも外国のスキーリゾートへ来ているかのような雰囲気があります。結構、別荘なんかも、外国人や本州の方々に売られていて、スキー場まで歩いていけるような一等地ですと、1億円以上の値が付くといった、本当に急激な変化を遂げている地域です（図6）。

ニセコ地区のこうしたグローバル化に対して、ニセコ町の住民の方々はどのような意識を持っているのか、住民の方々の土着アイデンティティーの有り様と地元方言の使用に何らかの規則的な関係はないのか、また、方言使用が人によって様々だとすれば、そうした個人差の中に土着アイデンティティーとの関わりで何か規則性のようなものは見い出せないだろうか、などといった問いをこの実地調査で検証してみようと思いました。

土着アイデンティティーと方言使用の“複眼的”検証

これまでのアイデンティティーと方言の使用に関する研究では、「あなたは（ニセコ）のことばが好きですか」などといった質問をするかと思います。これまでの研究では、それだけを聞いて、実際の方言の使用や方言使用に関する意識との相関を見ました。しかし、色々文献を読んでみると、一個人のアイデンティティーというものは、もっと複雑で、揺れ動き、相対的なものだとなってきたものですから、私は図7で示したように「複眼的検証」を試みました（図7）。

図7 「ことば」と「アイデンティティー」の複眼的検証モデル



アンケートを配布して回収するような「質問紙調査」だけでは駄目です。図7にあるように、いろいろとその人の語りを聞いて、「話者を知る」ことが大事ですから、最低2回、録音したのは2回だけですが、その前にインタビューの打ち合わせでお会いしたり、他の人も紹介してもらったりしますので、そのためにちょっとお訪ねたり、多い方では4～5回はお宅に訪問しました。

右下のボックスの「方言使用の実態」は、一般的な方言調査などで実施されることでもありますが、「方言使用意識アンケート」のほかに、その方が普段話していることば（「日常語」）を収集しました。ですから、アンケート調査だけではなく、もう少しカジュアルで自然な談話、話しことばも研究材料として集めました。

左下のボックス「アイデンティティーの客観的測定」は、研究者によっていろいろな捉え方ができるのだらうと思います。私自身は、「道産子意識」についてのアンケート調査をしました(植松 2010)。また、冒頭に申しあげました 2 系統の「自己観」を基にしたアンケート調査も行いました(高田他 1996)。さらには、自分のことば、ニセコのことば、北海道のことば、共通語に対して持つ態度も調査しました(Garrett 2010)。

実は、この図 7 には反映させていませんが、もう一つ実施しました。方言を話す人の音声を聞いてもらい、その方言を話す話者についての人物的評価を下してもらうという社会心理学的調査法(ヴァーバル・ガイズ法)を用いました。知性レベルとか親しみやすさ等といった人物像について、方言の音声を聞いて判断してもらうというタスクをやってもらいましたが、まだ分析が終わっていません。

土着アイデンティティーと方言使用の“複眼的”分析結果(中間報告)

いろいろとできる限りの資料を判断材料として、各人のアイデンティティーの所在・有り様を捉える。こうして各住民の方と単発ではなく、何度かお会いして、その方を知っていきますと、ニセコ町のグローバル化に対して、やはり反対の考え方を持っている人がいるということが分かってきます。「自然破壊や土地の買い占め」「外国資本の参入」「よそ者が増える」「街を荒らす」などといった理由からです。一方、賛成派の方もいます。「町が有名になっていいよね、活性化する」「子どもも増える」「街並みがきれいになる」「町の経済がよくなる」などという意見です。そして、「私は興味がないんですよ。あんまり自分と関係ないから……」という人もいます。中立的な立場をとる人ですね。このようなことが段々とわかってきました。

そうしたグローバル化に対する個々人のスタンスとアンケート調査から分かる方言使用意識を絡めて見てみますと、いくつか興味深いことが分かってきます。

結果を見る前に、このような方言使用意識に関するアンケート調査ですが、例えば、北海道では「とうもろこし」のことを「トーキビ」と言いますが、調査では、「とうもろこし」の絵を示して、方言や共通語的語彙の選択肢を与えて、「あなたはどれ

を使いますか」という質問に回答してもらいます。これは“意識的に”自分がどの方言を使うのか、あるいは、使わないかを答えてもらうものです。

こうしたアンケート調査への“意識的”な回答行為自体が、その人自身の母方言を通じた意識的な「アイデンティティー行為(Acts of Identity)」であると捉えることができると思っています。謂わば、方言の使い手としての土着アイデンティティーを公に申告するような行為です。「私は、こういう方言を使いますよ」ということを、私のようなよそ者の調査者に明かしてくれるという、これ自体がアイデンティティー行為だと考えます。

図8 地域のグローバル化に対するイデオロギー（反対派／中立派／賛成派）と“意識的”アイデンティティー行為（中年層住民）

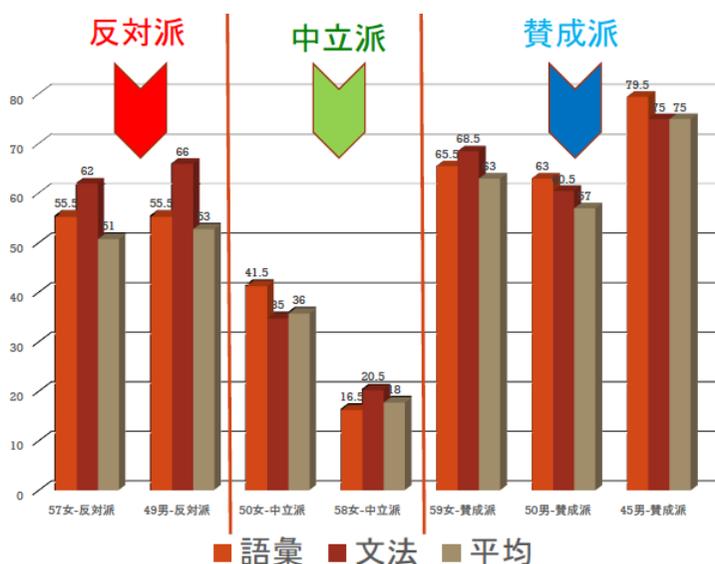


図8は中年層の住民7名についてです。若年層は、どちらかといえば賛成派が多く、老年層は反対派が多い傾向が見受けられました。中年層は、3つのスタンスにうまく分かれていて、ここで短時間で議論する上ではわかりやすいので、ここでは中年層住民だけを扱います。

図8をご覧くださいと、反対派の人々、例えば、「ニセコ町は変わってほしくない」「ニセコ町は今のままであってほしい」と願う人々は、やはり方言もたくさん使う

と申告しています。しかし、「私は関係ない。どうでもいい」「大して町のことに興味がないから」という中立派人々は、方言使用の申告の度合いも少なめです。

このあたりは、過去の類似の研究成果から割と予想できたことですし、特に地元には愛着の強い、忠誠心のある反対派の住民が、自分は「方言をたくさん使う」と回答する傾向は、過去の研究でも繰り返し言われてきているので、あまり驚きません。

予想外だったのは、この賛成派住民のパターンです。「ニセコがどんどん変わって行って、世界的に有名になっていってくれるとすごくいいね」と言う賛成派の人々は、むしろ反対派の人たちよりも多分に方言を使うと申告しています。「あれっ？ これっていったい何だろう」と思うわけです。「方言を使います」という“意識的”アイデンティティー行為は、地域住民の社会変化に対する主義主張と規則的相関が確かにあります。ただ、驚いたのは、この賛成派の人たちの振る舞いです。どうしてなのだろうかと悩みました。

グローバル化イデオロギーと自己観から読み解く方言使用

今までの研究では、ここで終わってしまいましたが、もう少しその話者のことを深く、自己観を含めた「アイデンティティー」の複合的内容を捉えていきたいということで調査をさらに進めていきますと、図9のようなことが分かってきます。ここでは、中年層住民の「自己観」について、4つの構成要素（個の認識・主張／評価懸念／独断性／他者への親和・順応）を散りばめた合計20個の質問への回答を数値化し（高田他 1996）、地域のグローバル化に対するスタンスの持ち方との相関を見ました。

例えば、「個の認識・主張」は、「常に自分自身の意見を持つようにしている」ことに対して、七つの尺度（“ぴったりあてはまる”～“全くあてはまらない”）で答えます。

「人が自分をどう思っているのかを気にする」という質問は、「評価懸念」にあたります。前者に対し、「あてはまる」と答えた人は、先にお話した「相互独立的自己観」に傾いた自己観の持ち主、後者に「あてはまる」と答えた人は「相互協調的自己観」寄りの自己観を持つという解釈になります。「独断性」という要素については、「一番最良の決断は、自分自身で考えたものであると思う」という質問があったり、「他者

への親和・順応」については、「仲間のなかでの和を維持することは大切だと考える」という質問があり，前者が「相互独立的自己観」，後者が「相互協調的自己観」に相応することになります。

図9 地域のグローバル化に対するイデオロギー
(反対派／中立派／賛成派) と自己観 (中年層住民)

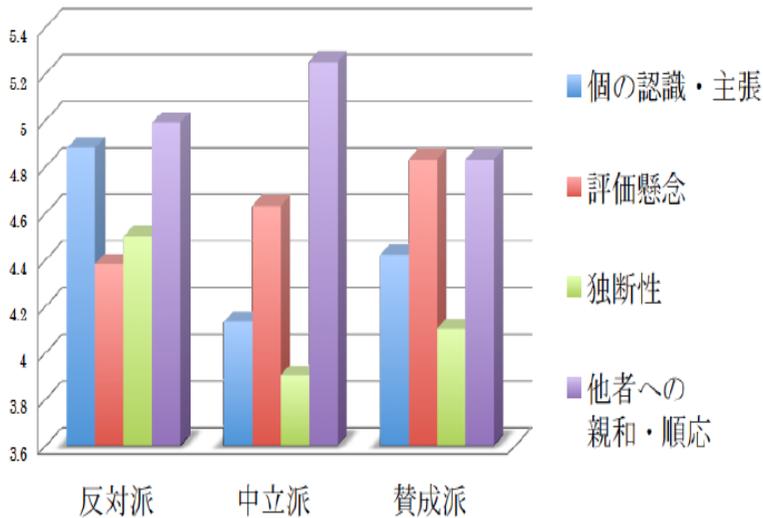


図9から，地域のグローバル化に反対する住民は，「個の認識・主張」「独断性」が他の二つのスタンスをとる住民に比べてすごく高いことがわかります。逆に，賛成派の住民はミラーイメージですが，「評価懸念」がすごく高いようです。つまり，自分が「人にどのように評価されているか」ということをすごく気にするタイプの人たちです。「独断性」や「個の認識・主張」は割と弱いようです。そして，中立派住民は，人とうまくやりたいという「他者との親和・順応」が一番高いという傾向が見られます。

以上のように，「土着アイデンティティー」の重要な構成要素と思われる「自己観」をもう少し詳細に見ていくことによって，どのような意識や動機から方言使用意識アンケートに答えてくれたのかということがパターン化して示されていることになります。地域のグローバル化に反対の立場をとる住民は，内発的で相互独立的，自

分の意見をしっかりと言う自己観の持ち主であることから、グローバル化に異議を唱える信念の表れとして方言の使用をアンケートで公言したということになります。賛成派の住民は、どちらかという、地元への同調志向や逸脱することを恐れるという心理的顕れとして、アンケートで方言使用を公言するという他者依存的、相互協調的な動機付けが中心であることが窺えます。中立派住民はそういったことには拘らず、自分を出さずに流れに身を任せるといった傾向になりましょうか。

グローバル化イデオロギーと言語態度から読み解く方言使用

次に、自分のことばに対する言語態度を見てみましょう。4つの構成要素を散りばめた合計16問、各4尺度（“ぴったりあてはまる”～“全くあてはまらない”）を設定したのですが、「北海道方言に親しみを感じる」といった質問で自分のことばへの「連帯感」、 「自分自身を標準語話者だと思う」といった質問で「標準語意識」、 「北海道方言は標準語と何ら違いはない」といった質問で「威信」、そして最後に「自分自身を方言話者だと思うかどうか」といった質問で「方言話者意識」を見ました（Garrett 2010）。図10は、それらへの回答を数値化したものです。

図10 地域のグローバル化に対するイデオロギー
（反対派／中立派／賛成派）と言語態度（中年層住民）

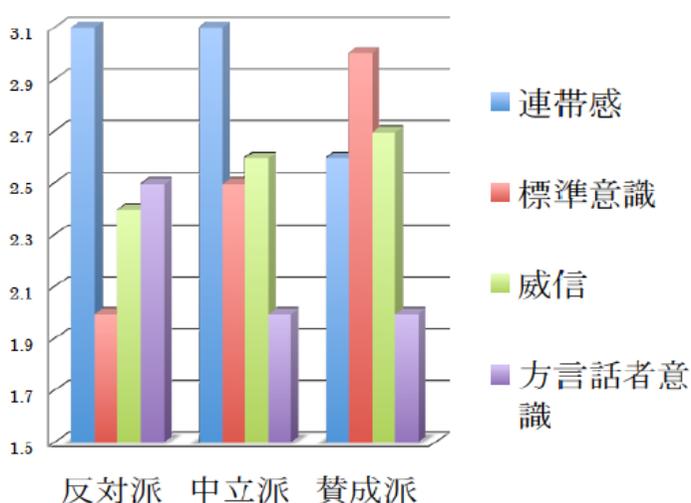


図10から、やはり反対派住民は、すごく自分のことばに対して「連帯感」が強いのが分かります。愛着を持っています。そして、「方言話者意識」が強い、自分は方言話者だという自覚がはっきりとあるわけです。一方で、当然のことながら、自分のことばへの「標準意識」は低いです。

一方、賛成派住民は、三者のなかで最も愛着や「連帯感」は低いです。何が高いかと言いますと、「標準語意識」が高い、自分のことばを標準語だと思っているわけで、同様に「威信」も強く感じています。そして、当然「方言話者意識」がすごく低いです。中立派住民は、ちょうどこれらの中間ぐらいの数値を示しています。

これらのことから言えることとして、反対派住民の場合は、方言話者としての自覚と、それを守りたいという連帯感や愛着の表れとして、アンケートで高い方言使用を告知するアイデンティティー行為につながった。それと対照的に、賛成派住民の場合は、標準語話者という自意識が強く、その使用をアピールするために高い方言使用を告知するアイデンティティー行為を行ったこととなります。地域社会がグローバル化することにより、自分たちのことば（方言）が危機に瀕しているという意識から守りの姿勢で方言使用を訴えているのではなく、社会が変わるとともに、自分の話すことば（標準語）の使用をよりアピールする行為に繋がったのではないかと思われます。²

“日常語”の揺れに顕在化する土着アイデンティティー

ここまでは、日頃の方言使用に関するアンケート調査の結果を元に、方言使用を意識的に告知するという手段による土着アイデンティティーの表示行為を考えてきました。

本調査では、アンケート調査だけでなく、各住民の方から“日常語”を収集させても

² 発表持ち時間の都合から、次スライド「グローバル化イデオロギーと道産子意識から読み解く方言使用」は割愛した。グローバル化イデオロギーのタイプと道産子意識との間に大きな相関は見られないことから、「郷土愛」などといった広く漠然とした概念では、土着アイデンティティーの表示行為としての方言使用の揺れを説明するに相応しくないという結論に至った。

らいました。私が「話し相手」になったので、100%普段通りのことばとは言えないかもしれませんが、できるだけ普段のことばに近いことば遣いを見ることで、話者自身も気付かない、無意識的な、潜在的な、余所者にはなかなか見せてくれないような、ことば（方言）によるアイデンティティーの表示行為を捉えてみたいと考えました。

“日常語”とは、社会言語学の研究のなかで、非常に重要な概念です(Labov 1972)。「素の自分が出たことば」で、内集団（親しい友人同士や家族内）で使われることばです。また、思春期までに完成する生育地の言葉で、一生涯変わらないものです。私自身は北海道南部の海岸地方の出身ですから、私の本来の“日常語”は、実家へ帰ったときに旧友などと飲みに出たりしますと、おそらく自分の浜ことばが出ているんだろうと思います。そのような私の浜ことばは、一生涯変わらない、染みついたものです。社会言語学のフィールドワーカーは、それをなんとか採りたいということで、話し手が「ことば遣い」ではなく、自分が話している内容にのめり込んでくれるような面白い話題を振って、その話し手の自然なことば遣いを採取していくことを長年やってきました (Labov 1981)。

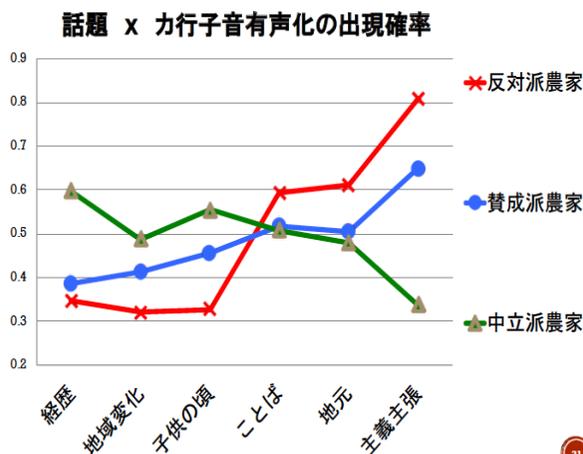
先ほどまでお話していた方言使用に関するアンケート調査は“意識的”な方言使用を尋ねていましたが、“日常語”を見ることで、話し手が無意識的で、その人の本音が反映されたような、余所者には普段、決して見せないようなことばの特徴が見えてくるのではないかという期待です。

そこで何を分析したかといいますと、語頭以外に出てくる「カ行子音（かきくけこ）の有声化（濁音化）」です。たまたま観ていたNHKの朝ドラ『ひよっこ』、第22話にすぐわかりやすい例がありましたのでご紹介しますが、「泣く」が「泣ぐ」、「泣かない」が「泣がない」となったりします。³ 『ひよっこ』のことばは、奥茨城弁なのだそうですが、聞かれる発音のいくつかは、北海道方言でもよく聞かれるもので、そういう音をターゲットに調べました。

³ 『ひよっこ』第22話（2017年4月27日放送）。主人公峯子と友人時子、三男が、通学途中のバスの中で、上京を翌日に控え、寂しく不安な気持ちを胸に会話をしている場面。

図11は、グローバル化に対するスタンスが三様（反対／賛成／中立）な、同世代(40～50代)の農家のご主人3名の日常語に見られるカ行子音の有声化を、ことばの揺れの研究によく使われる統計ソフト（Varbrul）を使って解析したものです。この結果から、彼らの日常語に見られるカ行子音の有声化は、彼らが話す異なる性質の話題によって制御されていることがわかります。言い換えると、異なる特性を持つ話題は、異なる影響力を持って、カ行子音の有声化の産出を支配しているということです。⁴ この影響力は、反対派のご主人と賛成派のご主人の日常語において、統計学的にも有意なものでしたが、中立派のご主人の日常語においては、ほとんど効力がない（つまり、統計学的に有意でない）ことがわかりました。

図11 日常語における話題による規則的揺れ：
グローバル化イデオロギーを異にする農家のご主人たち



異なる話題とは、その人の経歴を尋ねたり（「経歴」）、「ニセコがどんなふうになってきましたか」という質問をしたり（「地域変化」）、子どもの頃の話（「子供の頃」）や方言のことを聞いたり（「ことば」）、「ニセコのいいところはどんなところですか」「どんなところが好きですか」という質問（「地元」）をしたりしました。そし

⁴ 図11の縦軸は話題が（語頭以外の）「カ行子音有声化」の産出に及ぼす影響力の指数。「0.5」は、影響力がゼロで、「1」に近づくほど産出を促進し、「0」に近づくほど産出を抑制する。

て、そうした数々の話題の中で「町のグローバル化に対してどんな気持ちを持っていますか」という話題（「主義主張」）も投げかけていくわけです。

反対派のご主人ですが、「土着アイデンティティー」に深く関わるような話題、つまり、ことば（方言）や地元に対する思い、グローバル化に対する主義主張といった話題になると、先ほどの「泣ぐ」とか「ニセゴ」というような有声化がより頻繁に出てきます。対照的に、経歴とか地域の変化とか子供の頃の話になると、有声化がぱったりと抑えられる、話題によってダイナミックなスタイルシフトが見られません。

中立派のご主人は、こうしたスタイルシフトはほとんど見られません。この曲線は、統計学的に有意ではありませんから、このご主人の力行子音有声化の産出によって、話す話題はあまり意味がないということの意味します。

賛成派のご主人は、反対派のご主人とほぼ同じようなパターンの曲線が描かれていますが、反対派のご主人ほどダイナミックにスタイルシフトを起こしてはいません。

こうした結果の社会言語学的解釈として、日頃から土着アイデンティティーが脅威にさらされていると感じている反対派のご主人は、この「力行子音有声化」という方言的特徴の採用によって、無意識ではありますが、自分の土着アイデンティティーを表示・強調する行為を行っているのではないか、あるいは、そういった方言使用を復興させたいという意思の無意識的な顕れではないかという説明が成り立つのではないかと考えています。つまり、アンケート調査とは少し違ったかたちの調査をしますと、日頃、その人が他人にはなかなかさらさないような、方言を用いた「アイデンティティー行為」が少し見えてきたりするということです。

反対派のご主人は、自分の方言を伝達手段とした「アイデンティティー行為」を、普段、日常生活のなかでもとても積極的におこなっている人だろうということです。賛成派のご主人は、方言を伝達手段とした「アイデンティティー行為」を、主に余所者向けの“意識的な”アンケート調査などであれば、ある意味こちらの期待通りに、方言使用をアピールしてくれますが、日常語のような“無意識的な”スタイルで話す

と、あまり方言は出てきません。ですから、なにかしら、一種、“建前的な”場面だと出てきますが、“本音的な”場面では、「方言の使い手」とは必ずしも言えない存在なのだろうと思います。最後に、中立派のご主人にとって、どのような場面でも、方言は「アイデンティティー表示行為」の手段とはなりえないということであろうと思われま

まとめ

これまで私が行ってきたニセコ町でのフィールド調査の成果の一部をご覧いただきながら、「ことば（方言）」と「アイデンティティー」の関係について考えてきましたが、「アイデンティティー」という概念はすごく複雑で、調べてみますと、たいへん複合的な構築物だということが分かってきました。“建前的な”アンケート調査などで示してくれるアイデンティティーの見せ方と、ごく自然な日常会話のなかで見え隠れするアイデンティティーの顕れ方と、なにか一個人のなかに併存といえますか、共存している実態が明らかになりました。それは、単発のアンケート調査や訪問だけではなかなか出てこない、把握しきれない、「ことば」と「アイデンティティー」の奥深い関わりの実際のところであろうと思います。

場面や求められる調査タスクによって複雑に揺れ動くアイデンティティー行為は、意識的回答(方言使用意識アンケート)と無意識的な日常語、普段のことば遣いの中で比較してみると、確かに結構な隔たりがあります。しかしながら、個々の話者の方言使用の中に見られるこのような隔たり（スタイルシフト）こそが、方言使用上のバリエーションにどのような規則体系が存在するのか、また、話者自身にとってそのバリエーションはどのような社会（心理）的意味を持つのか、そして、今後、ニセコで話されている方言はどのような変化の道筋を辿っていくのだろうか、等々の難問に答えるためには重要な手がかりになるのではなかろうかと思

まだ暫定的なところですが、例えば、今後、ニセコの方言を固持していくのは、おそらく地域のグローバル化に対して反対派の住民、「方言が危ない」「自分のアイデンティティーが危機だ」という意識を抱いている人々。そのような人々が、日常生活

の様々な場面で地元の方言を使い、維持していくのだらうと思います。アンケート調査では、賛成派の住民がたくさん方言を使うと答えてくれましたが、ニセコの方言を使い続けて継承していく人たちは、おそらくその人たちではないでしょう。日常的な場面で、自分の本心や本音をさらけ出す媒体として方言を使い続けているわけではないからです。従って、ニセコが今後さらにグローバル化し、様々なことばが混ざり合って共通語化が進んでいきますと、賛成派の人々もさほど拘りなく、歩調を合わせて変わっていくのではないかと思います。そして、共通語化の最先鋒となる人々は、おそらくは、地域の変化や自分自身の帰属などについて、あまり特定の考えや感情を抱かず、「今の感じで、このまま行けばいいんじゃない?」という中立的なスタンスをとる住民が、共通語化をどんどん受け入れながら、ニセコの方言の変化に拍車がかかっていくのではないかという構図を描いております。

最後になりますが、個々人のアイデンティティーがことば（方言）の揺れのシステムや変化の方向性に密接に結び付いていることは明らかですから、今後もその辺りはさらに検証されていくべきものだと思います。

謝辞

本調査にご協力いただいたニセコ町民の皆様はこの場をお借りし、心より感謝の意を表します。

【参考文献】

植松晃子（2010）

「異文化環境における民族アイデンティティの役割：集団アイデンティティと自我アイデンティティの関係」『パーソナリティ研究』

第 19 巻 第 1 号 25～37 頁

佐藤和之・米田正人（編著）（1999）

『どうなる日本のことば：方言と共通語のゆくえ』大修館書店

真田信治・ダニエルロング（編）（1997）

『社会言語学図集』秋山書店

高田利武・大本美千恵・清家美紀（1996）

「相互独立的一相互協調的自己観尺度（改訂版）の作成」奈良大学紀要

第 24 号 157～173 頁

ダニエル・ロング（1990）

「大阪と京都で生活する他地方出身者の方言受容の違い」

『国語学』162 集 76～89 頁

Cheshire, Jenny. (1982). *Variation in an English Dialect: A Sociolinguistic Study*. Cambridge: Cambridge University Press.

Garrett, Peter. (2010). *Attitudes to Language*. Cambridge: Cambridge University Press.

Labov, William. (1972). *Sociolinguistic Patterns*. Philadelphia, PA: University of Pennsylvania Press.

_____. (1981). Field methods of the project on linguistic variation and change. *Sociolinguistic Working Papers* 81. Austin, TX: Southwest Educational Development Laboratory.

Le Page, Robert B., & Tabouret-Keller, Andree. (1985). *Acts of Identity: Creole-based Approaches to Language and Ethnicity*. Cambridge: Cambridge University Press.

自分の「声」としての方言 —メディアの中の方言使用を例に—

太田 一郎（鹿児島大学）

はじめに

こんにちは。鹿児島大学の太田一郎と申します。ドラマのなかで使われる方言を例に、少しお話しさせていただきます。高野先生のアイデンティティーの話などとも非常に関連のあることですので、思い出しながら話を聞いていただければと思います。

ここで話すのは以下の3点です。

1. 「あまちゃん」のコード（「方言」と「標準語」）の選択と切り換え
2. コードを選択する理由
3. コードの選択による表象

今日考えたいのは、『あまちゃん』（NHK連続テレビ小説）の方言と標準語の選択という問題です。言語学では一般に「方言」や「標準語」と呼ばれる「ことばの変種」を「コード（code）」と呼びますが、『あまちゃん』というドラマで興味深いのは、そのコードの選択と切り換えです。ドラマのなかで、登場人物たちがあるコードを選択する理由と、そのコードの選択によって、ドラマにおいては何が表される（表象される）のかというお話をしてみたいと思います。

ひとつ気をつけておいていただきたいのは、私の話では「方言」や「標準語」などは、「ことばの資源（言語資源）」と捉えるということです。たとえば関西出身でない人でもときおり「なんでやねん」とツッコミを入れることがあります。このような例を考えると、現代社会において各地の方言は、その土地で生まれ育った人びとだけのものではなく、誰もがるときある目的のために利用できる言語的な資源になったと見なすことができます。以下では、このようにことばのバリエーショ

ンが言語的資源となることを前提に、『あまちゃん』のコード選択と切り換えは物語の文脈においてどのような解釈が可能か、そしてそこからわれわれの現実世界でのバリエーションの使用が表す意味を考えてみたいと思います。

テレビドラマと方言

まず、テレビドラマの中で使われる方言について考えてみましょう。田中(2016)は、方言には、「リアル方言」と「ヴァーチャル方言」があると言います。リアル方言とは、ある方言の話者が日常生活で本当に使っている「現実(リアル)の」方言のことですが、ヴァーチャル方言は、ある地域の方言であると認められるけれども、話者たちが実際に使っているとは限らないものを指します。テレビドラマやマンガなどは現実ではない「仮想現実の世界」ですが、そういう意味では、メディア作品のなかで使用される方言は「ヴァーチャルな」ことばと言えます。

テレビドラマはふつう全国の視聴者に向けて作られるわけですから、ドラマのなかで使用される方言があまりに「本物」であると、リアリティを出す以前に視聴者の理解を妨げてしまうことがあります。そのため、ある意味で「ニセモノ」の方言が使われてきました。ただ、その「ニセモノ」の作り方もいろいろと変化をしてきたようです。

田中(2016)は、1950年代から1970年代ぐらいまでのドラマを、「なんちゃって方言ドラマ」と呼んでいます。たしかにこの時代のドラマの方言は、本当に「ニセモノ」という感じがします。私は九州出身ですが、九州が舞台のドラマでは、よく文末に「バイ」や「タイ」がつけられていたのを思い出します。何でも「バイ・タイ」をつければ、九州弁になると思われていたわけです。(もちろん九州も広いので、「バイ・タイ」を使わないところもあります。)タレントのタモリさんがよく文句を言っていたのが、本当にそのとおりで、正しいかどうかに関係なく、何でも「バイ」と「タイ」がつけられている時代がありました。

1970年代の中頃になると、ドラマに方言指導が取り入れられてきます。その後、だんだんと現実に近いかたちの方言使用が当たり前になり(田中 2016, p.141)、最

近のドラマでは、多少の違和感があっても「ニセモノ」と感じるようなものはほぼなくなったのではないかと思います。むしろ、方言はドラマに「リアルさ」を付与するための非常に重要な要素となっているようです。

大河ドラマ『西郷どん』はご覧になっていますか。『西郷どん』で描かれる時代は幕末から明治初期ですから、当時の鹿児島の人びとのことばは昔の薩摩ことばのはずです。⁵ 西郷吉之助(隆盛)や大久保正助(利通)は下級武士ですから、薩摩ことばを使っていたらと想像されます。また、2008年に放送された『篤姫』の宮崎あおいさんが演じた篤姫は、ドラマではほとんど薩摩ことばを話しませんでした。今回北川景子さんが演じる篤姫は薩摩ことばを話しています。篤姫は島津の分家出身のお姫様ですが、薩摩に生まれ育ったので、この人も薩摩ことばを話していたのではないかと思います。一方、江戸生まれで江戸育ちの薩摩藩主島津斉彬は、ふだんは薩摩ことば使わないように描かれています。⁶

理解しにくいことで有名(?)な鹿児島方言ですが、ドラマのなかでは、標準語をベースに一部を昔ながらの方言形に置き換えることで、理解可能なかたちで薩摩ことばらしさがうまく表されていると思います。たとえば、「ありがとうございます」の意味で「あいがとさげもす」、「しかし」の意味で「じゃっどん」などはその代表だろろうと思います。このようなヴァーチャル方言を聞いて、鹿児島の人たちは「何て聞き取りやすい薩摩ことばだ。頑張ってるんだな」と思うわけなのですが、鹿児島方言独特の「語アクセント」や「つまる音(促音化)」などの音声的特徴はほかの地域の人びとにとっては台詞の聞き取りを難しくするようで、「薩摩ことばが本格的すぎてわからなかった」という意見も聞かれます。音声の特徴はもっとも鹿児島方言らしい部分なのでなくす訳にはいかないと思いますが、一方でドラマを作るうえで方言らしさをどの程度まで追求するかというのもなかなか難しい

⁵ 江戸時代には「方言」という概念が確立されていなかったため、『西郷どん』の話では「薩摩ことば」という表現にしています。『海月姫』のように舞台が現代の場合は「鹿児島方言」と記します。

⁶ まれに薩摩ことば使う場面が描かれますが、これは後述の「スタンス取り」の例と考えることができます。

問題です。

また、2018年1月からフジテレビ系列で放送された『海月姫(くらげひめ)』というドラマがあります。『海月姫』の舞台は東京ですが、芳根京子さんが演じた主人公の倉下月海(つきみ)という主人公は鹿児島出身という設定です。現在の鹿児島の若い人たちのことばは、アクセント以外はほとんどが標準語になってしまいましたし、ふだんは鹿児島アクセントで話していても、必要に応じて若い人たちは上手にアクセントも標準語に切り換えます。月海も東京でのふだんの生活では標準語で話すのですが、独り言や取り乱すときには鹿児島方言にスイッチします。次の例を見てください。ドラマ第1回の冒頭で、月海が亡くなった母親に向けて語る場面の台詞です。太字部分を高く読んでみると鹿児島方言になります。

おかあさん

おひめさま みたいな ふりふりの くらげをみて

あなたは こういいましたよね↑

「おんなのこは **おおき** になったら **みんな** **みんな** **きれい** かおひめさまに
なれるんだよーって」

(フジテレビ 『海月姫』 第1回 2018年1月15日放送)

このように、ドラマの始めのころには月海はときおり鹿児島方言を使っていたのですが、回を追うごとに「おかあさん」と母に呼び掛けるところ以外ではだんだんと鹿児島方言が出なくなってくるのです。これが何を意味するのかは、このあとの「スタンス取り」という話と関連してくるところです。

田中(2016, p.140)はテレビドラマの方言には次のような特徴が見られると言います。

- (1) 基本は共通語で、人称や文末の表現、アクセントなどの発音などで「方言らしさ」を表す。

- (2) 「方言」独特の単語である俚言等の使用はなるべく避ける。使用する場合は「共通語」の字幕や状況を示した繰り返し使用などで視聴者の理解を助ける。
- (3) (1)と(2)を逸脱する場合は、その逸脱には演出上の「意味」が込められている。

テレビドラマは全国の人が見ますから、一部の人しか理解できないものではだめです。そのため、多くのドラマは標準語をベースにししながら、なおかつその土地の言語特徴を上手に混ぜて作っているの、舞台となる地域のステレオタイプ的な方言特徴がよく利用されるようです。つまり、現実の日常生活で使用されるリアルな「〇〇方言」である必要はなく、ヴァーチャルでも「〇〇方言らしさ」があるかどうかということが一番の問題だということです。また登場人物のキャラをつくるために、顕著な方言特徴が利用されることもあります。

もうひとつ注意しておきたいことは、ドラマのことは脚本家等の創作であり、言語学でよく研究資料となる現実に生じた言語使用ではありません。しかしながら、その一方で、ドラマのことはといえども現実の方言の体系性や使用の規則性などに基づいて描かれているのも事実です。そうでなければ、視聴者はドラマのことは理解することはできません。ドラマのことは、たとえ「ホンモノ」でなくても、われわれの実際の言語使用を投影しており、物語のなかの現実、物語のなかの文脈に照らしてその使用が解釈されるものなのです。

ドラマのことはデザインの

それでは、『あまちゃん』の方言使用の話に入っていこうと思います。ここでは、ヒロインの天野アキと裏ヒロインの足立ユイの方言使用を中心に考えてみます。

『あまちゃん』は、岩手県の久慈市小袖地区をモデルとした北三陸市袖ヶ浜という架空の漁村と、東京上野界隈をおもな舞台とした二都物語としてつくられています。この北三陸市には海女や駅や商店街などの地元の人びと、また東京には女優や

芸能プロデューサー、アイドルグループなどが登場します。

『あまちゃん』の物語の構成は、次の三つのパートに分かれています。第1部は東京から来た地味な女子高生が最年少の海女から地元アイドルになる北三陸パート、第2部はアキが上京して GMT のメンバーとしてアイドルになることを目指す日々を描く東京パート、そして第3部は、東北の震災を機にアキが東京から戻り、あらためて海女と地元アイドルとして「地元」の再生に活躍する震災後パートです。

まず、このような舞台構成において、物語全体ではどのようなことばが使われるかを考えてみます。渋谷（2015）によれば、物語のことばは、その書き手が全体の基調となるものを決めます（「グローバルデザイン」と呼びます）。『あまちゃん』の場合には二つあります。一つは袖ヶ浜の方言、もう一つは標準語（または東京語）です。⁷ これらは、物語全体の場面場面を通して、選択されることば（コード）の基調となっています。これにくわえて、それぞれの登場人物がどのようなことばを選択するかは、場面ごとに、また文脈ごとに「ローカルに」決定されていきます（「ローカルデザイン」と呼びます）。

具体例を考えてみましょう。アキの祖母の天野夏は、北三陸で「おら、東京さ、行ったこともねえ」と袖ヶ浜の方言を話します。北三陸が舞台ですからグローバルには「方言」が基調であり、夏ばっばはローカルにその基調に合ったコード選択をします。女優の鈴鹿ひろ美が東京で東京語を使うのも同じです。

このように、ドラマや小説などの創作物では、作者がすべての登場人物のことばをデザインしていますが、日常の言語使用においても、われわれは意識的または無意識的にことばをデザインしているとも考えることもできます。デザインするのが作者か話者かを問わず、ことばは何らかのかたちでデザインされており（Bell 1984）、そのデザインのあり方は創作物も現実とほぼ共通の法則性が見られると言えるでしょう。

⁷ アキの場合は東京出身なので、彼女の日常語は東京語と呼んでおきます。ユイは東京に行ったことがないので、彼女のことばは、東京語とほぼ同じものでも標準語と呼ぶことにします。

『あまちゃん』の方言使用

では、アキとユイのコード使用を見てみましょう。アキは東京出身ですから、普通なら東京語を話すことが期待されるわけですが、物語が進むにつれて袖ヶ浜の方言を話すようになっていきます。一方、ユイは北三陸で生まれ育っていますが、東京に対して強い憧れを持っていて、方言ではなく標準語を話します。東北の人は東北弁を、東京の人は東京語(標準語)を話すものとわれわれは勝手に思い込んでいるわけですが、この二人のことばは逆なのです。ここがこのドラマのコード選択を考える際に、まず押さえておかねばならない一番な大きなポイントです。このような二人のコード選択をまとめたものが次の表1です。

人物 (出身)	使用することば (コード)
アキ (東京)	1. はじめは東京語だが北三陸で生活を始めてからはおもに方言 2. ときおり東京語に戻ることがある 3. 物語後半に東京で生活するようになってもおもなコードは方言 4. 状況により東京語へコードスイッチングする
ユイ (北三陸)	1. 物語の前半ではおもに標準語,方言は「ビジネス」として使用 2. 物語の後半ではおもに標準語だが、ときおり自然と方言が混じる

表1 アキとユイのことばの選択 (蓑毛 2017 を改作)

では、具体的に、ことばがどのようにドラマのなかで使われているかということを見てみたいと思います。

まずどのようにして調べたかということをお話しておきます。先ほど、物語は三つのパートに分かれていると言いましたが、全部で 156 話ありますので、すべて調べるわけにはいきません。そのため、まずそれぞれのパートの最初の 10 話ずつで、アキのことばがどのように変わっていったかを見ることにしました。アキのことばは方言も東京語もたくさん現れるので、数量的な視点からの確認ができます。一方、ユイの場合はほとんどが標準語で、方言はわずかな例しか出て来ません。

そのため、質的な分析のみにとどめました。アキのコード選択も含めた質的分析は、各パートの始め 10 話に限らず、物語全体にわたって例を取り上げます。

表 2 はアキの方言コード使用の量的変化を示したものです。方言形の生起数ではなく、コード選択の量を把握したいので、ひとまとまりの音調と捉えられる「音調句 (IP)」を数える単位として、台詞の中に一度でも語彙や文法形式などの方言形が出て来た場合をひとつと数えました。音調句数は、第 1 パートでは「423」、次は「690」、次は「770」ありましたが、その中の方言の割合をみると、だんだんとアキの方言の使用が増えていることがわかります。

パート	地域	方言使用の割合	音調句の総数
海女 地元アイドル	北三陸	8.5%	423
アイドル	東京	39.0%	690
地元再生アイドル	北三陸	41.2%	770

表 2 アキの方言コード使用量の変化

話し相手	第1パート		第2パート		第3パート	
	%	Freq.	%	Freq.	%	Freq.
春子	0	56	8.3	12	48.3	58
夏	1.4	70	70.8	24	66.7	45
ユイ	100	2	34.4	32	37.4	91
北三陸	14.6	85	50	31	50	214
種市	—	—	51.4	140	47.3	55
鈴鹿	—	—	27.9	111	64.3	14
太巻	—	—	13.3	30	—	—
水口	—	—	27.8	54	28.6	14
GMT	—	—	44.2	86	66.7	18
非対者的	22.9	70	59.6	94	48.3	58

表3 アキの方言使用量の変化（対人別）⁸

次に、アキは誰に方言で話をしているのかということを表したものが表3です。主な登場人物ごとにまとめて示しています。母親の春子に対しては、最初の第1パートでは0%ですが、第2パートでは8.3%になり、第3パートになると48.3%になるというように増えていきます。それぞれの相手に対する数はばらばらなので、簡単に比較はできませんが、祖母の夏に対しても、やはり第2パート、第3パートで増えています。親友のユイに対しては第1パートでは100%ですが、度数は2なので、たまたますべて方言だったというだけです。第2パート、第3パートでは、だいたい30~40%ぐらいで方言を使用していると思われます。全体として見ると、物語が進むにつれて方言の使用が増えていくような描かれ方をしていたということがわかります。

⁸ 「非対者的使用」には、ひとりごとなどだけでなく、対者的であるかどうかの判別がむずかしい場合も含めています。たとえば問投詞の「じえじえじえ」などがそうです。

コード選択/切り換えとスタンス

それでは、あるコードが選択されるということはどのような意味を持つのかを考えてみましょう。上述のとおり、『あまちゃん』では基調となるコードは「袖ヶ浜方言」と「標準語（東京語）」のふたつです。登場人物たちは、このふたつのコードのうちどちらかを選び、ときにはふたつのコードを行き来します。では、どのような理由でコードの選択や切り換えを行うのでしょうか。

方言の使用はよく話者のアイデンティティと関連があると言われます。では、アキが袖ヶ浜の方言を話せば「袖ヶ浜の者」というアイデンティティをもつことができるのでしょうか。これは少しちがうような気がします。たとえば、アキの方言使用について、ユイは次のように言います。

ユイ：今日訛ってないね

アキ：あ… そうだね(笑) 最近 浜に出てないから戻っちゃったのかも

ユイ：そっちの方がいいよ アキちゃんが訛ってるのなんてウソだし 不自然だし なんかバカにされてる気がする

(第 17 回)

いろいろな面での力関係において都会のほうが勝っている状況において、地方の人間にとって都会出身の者が方言を使うことは不自然なことであり、必ずしも好意的に受け取ることはできません。方言を話すことが「地元民」としての承認を得ることに直接はつながらないのです。また、アキ自身も自分の東北弁は「ズコリュー（自己流）」の「インチキ」だと認識しています。しかし重要なのは、そのような認識を持ちながらもアキが方言が自分にとっては「自然なもの」と感じている点にあります。「自然なもの」とは「ムリをする必要のない居心地の良いもの」と言い換えることができるかもしれません。それは「北三陸の人間」というアイデンティティを手に入れることと必ずしも一致しません。また、ユイは東京に強いあこがれを持っており、北三陸の人間でいることに抵抗感があります。ユイにとっても標準語は

「自然でいることのできる」ツールとして機能しているのです。

では彼女たちの言語使用にはどのような説明が可能でしょうか。ここでは「スタンス取り」という概念を使って考えてみたいと思います。言語資源、(言語を使った)行為/活動、スタイル、スタンスという社会言語学的概念の関係について、ポデスバ (Robert J. Podesva)らが 2001 年に示したのが図 1 です。われわれにはいろいろな手持ちのことば (言語資源) があります。先ほどの「そだねー」もそうですし、「ばい・たい」もそうです。われわれはこのようなことばの要素をうまく組み合わせて、ある種の「行為」や「活動」をおこないます。その行為や活動をおこなうときには、ある話し方 (スタイル) が作られます。また、そのような話し方をすることが、われわれがどのような立ち位置にいるのか、すなわちどのようなスタンスを取っているのかということを表すこととなります。

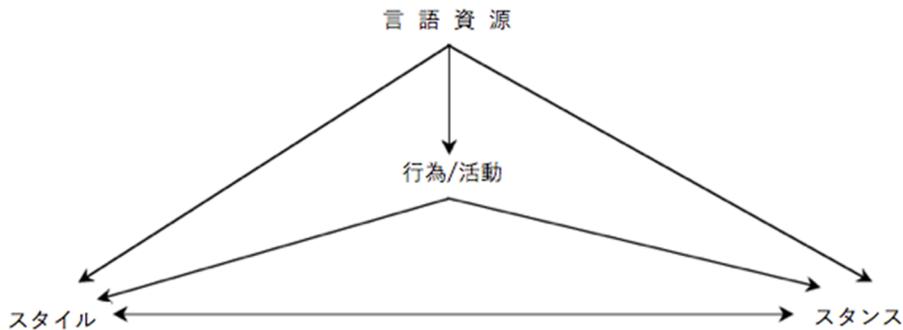


図 1 言語資源と社会的意味の関係

(Podesva, et al. 2001, p.180)

たとえば、先ほどイギリスのレディングの不良たちの話が出てきましたが、不良少年たちの言語資源を利用した話し方 (スタイル) の構築が、彼らが反社会的であるなど、主流の文化に対して少し反抗的な立ち位置を取っていることを示すこととなります。

また図 2 は、二人の話者と対象、それぞれのスタンス取りとの関係を示したもの

です。話者1が対象について何か話をするとはします。ある事柄（対象）について話をするということは、それに対して、話者はある種の価値判断や意見を言うことでその立場を表明します。同様に話者2も同じように何かを述べます。そうすると、ある対象（への言及）を介して、相手との関係の構築・調整がなされ、自分たちのポジション、立ち位置が決まります。スタンスに関わるのは話の内容だけではありません。どのコード、どの形式をつかうかによっても対象との関係さらには相手との関係が調節され、自身のスタンスが決まります。このようにことばによるやり取りは、ある種の「交渉（negotiation）」としての側面を持っています。さまざまなレベルで言語の資源を駆使して交渉を行い、われわれは相手と自分の関係をつくっていくことを行っているわけです。

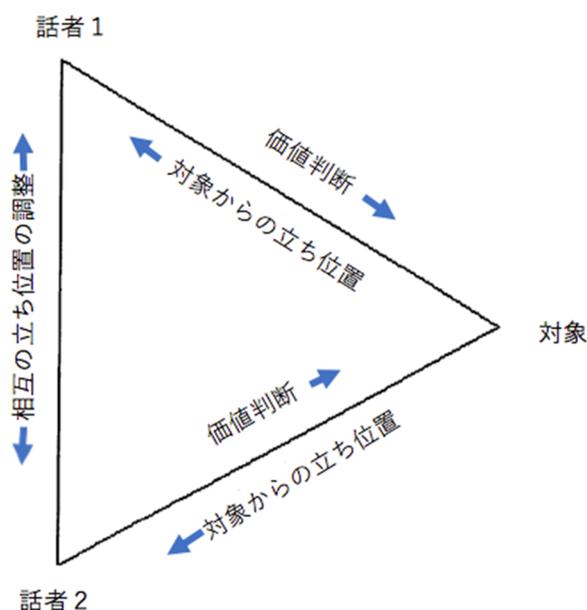


図2 スタンスの三角形 (Du Bois 2007, p.163)

アキとユイのコード選択/切り換え

では、アキとユイがどのようにコードを使い分けているかを見てみましょう。次の例のように、第4話でアキは初めて方言を話します。

(アキは車内販売で売れ残ったウニ丼を食べている)

アキ：うめっ！うめっ！超うめっ！

春子：……

夏：悪いな 売れ残りで

アキ：全然いい むしろ毎日売れ残って欲しい

夏：コラっ 縁起でもねえこと言うな！

アキ：へへへへ

夏：罰として 明日はウニ丼売り 手っだってもらおうど

アキ：じえじえ！

夏：今日ウニいっぺえ仕入れだから 40個作るから 20個ずつ どっちが
早ぐ売れるか 競争だ

アキ：うーんやったあ！きだ三陸鉄道リアス線さ まだ乗れる！

春子：なに急になまっちゃってんの

(第4話)

*下線部が方言

例の有名な「じえじえ」のほか、「きだ」「まだ」の有声音、「リアス線さ」の助詞など、東北方言のよく知られた特徴が見られます。これに対して、母親の春子は「なに急になまっちゃってんの」とコメントをします。つまり、春子はアキには東京語を期待しているということです。これまでの説明からは、このようなコード選択は祖母の夏のことばに合わせようとする（アコモデートする）というより、アキ自身が北三陸という対象に対して何らかの位置取りをしていると見ることができます。

一方、母親の春子と話をするときには、次例のように、第1パートではその多くが

東京語です。

(高校時代のことを春子がアキに語っている)

春子：でも、髪型変えたぐらいじゃ何も変わらないのよね　でもアイドルに
なりたいて気持ちは強くなる一方でさ　それでえ　オーディション
を受けたりしてたの　だからあ　これはね　それように撮った写真

アキ：…へー， そうなんだ

春子：ダァさいでしょー？

アキ：そんなことないよ

春子：ほんとに？

アキ：うん， ちょっと…なんだろう， イタい子だなどは思うけどダサクは
ないよ

春子：イタいって…　言葉選んでそれかよ

(第 38 回)

アキは、母親の昔の写真を見て、「そんなことないよ」「うん， ちょっと何だろう。痛い子だなどは思うけど， ダサクはないよ」と東京語を話します。第 1 パートでは、アキは春子と話をするときには、東京語のことが多いのです。またユイとの会話でも、春子の話題になると東京語で話すことが多く、春子が「対象」だと東京語コードで母と娘というスタンスを決める様子がうかがえます。⁹

一方、第 2 パートの終わりの回では、アキは春子を相手に「だべ」「おら」「さ」「ける」などの方言形、「好ぎ」「よろしぐ」などの有声音を使って、一貫して方言コードでとおすようになります。

⁹ たとえば、第 37 話のユイとの会話で、お母さん（春子）がラップをするのかしないのかという話になりましたが、このときのアキはほとんど東京語で話しています。

春子：いいの？

アキ：何が？

春子：ママ，東京残ってもいいの？鈴鹿さんの面倒見ていいの？

アキ：そうしたいんだべ！

春子：(頷く)

アキ：じゃあ，好ぎにしろ！なんつって。フフ！今度は，おらが背中を押す番だな。社長，鈴鹿さんの事，よろしく頼みます。こき使ってもい
いがら，元の大女優さ戻してけろ。

(第 136 回)

春子が東京に戻ってから，春子との関係には母娘以外に芸能事務所の社長とタレントという新たな関係が生じます。(アキは，タレントとしては訛っていることを売りにしています。)「社長，鈴鹿さんの事，よろしく頼みます」は同じ事務所の女優である鈴鹿ひろ美を話題とし，その話題(対象)に方言コードで言及すること，また対者的には春子を「社長」と呼ぶことでその関係を調節してスタンス取りをしています。一方，「そうしたいんだべ！」のほうは，春子自身が自らを「ママ」と呼んでおり，親子という関係での会話と考えられます。つまり，以前は東京語で話していた母親との関係が，方言を使って位置づけられるものに変ったと言えます。

また，第 2 パートの次の例では，アキのコード切り換えが見られます。

(アキは東京の合宿所において北三陸の春子と電話で話している)

アキ：おっかねえ夢見だ

春子：夢？

アキ：途中までは ママど…若えころのママど喋って いい感じだったのに
静御前が…

春子：だいじょぶ？あんた 疲れてんじゃないの？

アキ：…クビになっちゃった【標準語】

春子：…え？

アキ：事務所クビになっちゃったんだ今日 太巻さんに嫌われで

春子：…どうして

アキ：…わがんね

春子：…『わがんね』って何よアキ！理由があるはずよ

アキ：オラよりママの方がわがるはずだ！

春子：！？

アキ：ごめん… オラ さっぱり分がんね 一生懸命やってんのに もう帰りたい ねえママ アキ そっち帰りたいよ もう帰っていい？いいよね？【標準語】

春子：ダメよ

(第 101 回)

「訛ってる」キャラであるアキの東京での基本コードは方言です。芸能事務所をクビになったことを春子に告げるときもほぼすべて方言コードですが、「アキ、そっち帰りたいよ」というときは東京語にコードを切り換えます。自称詞が「オラ」から「アキ」に変わっていることが、「春子の娘」というスタンスであることをより強烈に示します。

以上のようなアキのコード選択を表したものが図3です。はじめは北三陸の人々に対しても「標準語（東京語）」が基本コードでしたが、物語の進展とともに、だんだんと方言がふだんの言語コードになっていきます。アキがさまざまな人々との関係を、基本コードの選択やローカルにデザインされたコード使用によって調整・交渉して自らの立ち位置を確立していく様子がわかります。

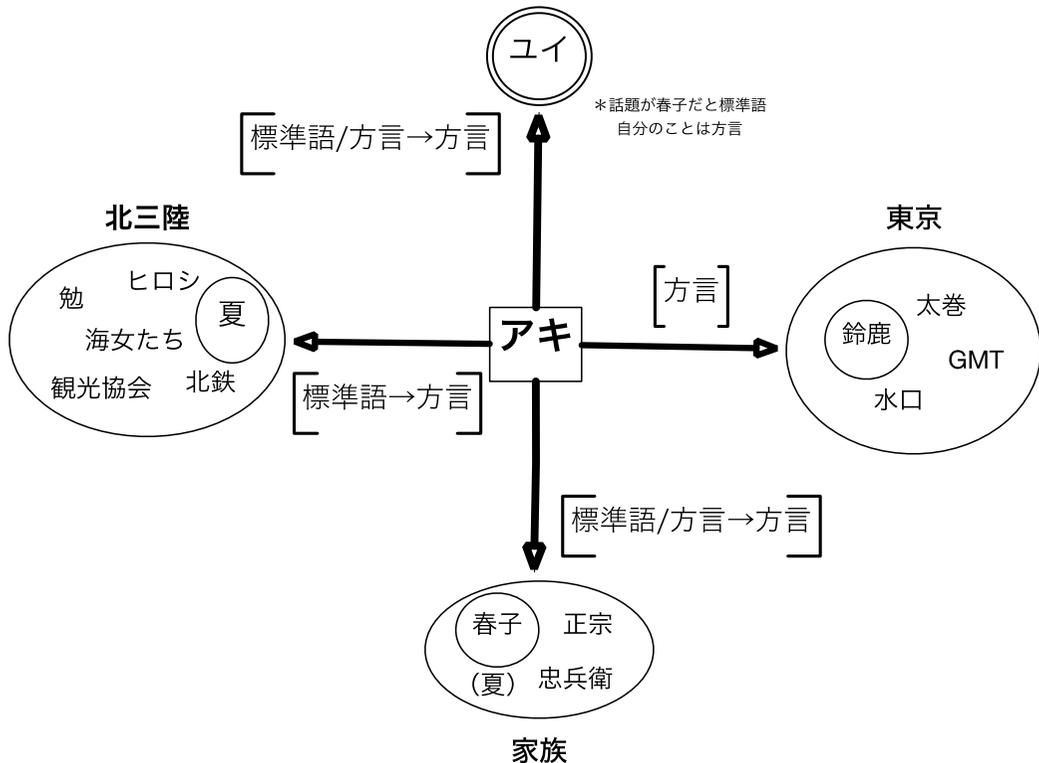


図3 アキのコード選択の変化
(標準語は東京語と同じ)

では、ユイのコード選択についてです。標準語コードが常に基本であるユイの立ち位置は、次の台詞にうまく表されています。

ユイ：自然がいいとか海がキレイとか 東京から来た人が言うのは分かるでも私は言えない だったら都会が好き私は ビルが好き 地下鉄が好き ネットカフェが好き……行ったことないけど だから行きたいこの目で見たい 地方出身者でも 同い年の子とか 年下の子とか ぜんぜん頑張ってるし チャンスがあれば明日にでも出て行きたい 私はおにいちゃんとは違うの 行ったら絶対帰ってこないんだ 夢があるから

(第 17 回)

「自然がいいとか、海がきれいとか、東京から来た人が言うのはわかるけど、でも、私はそうじゃない。私には夢があるから、東京に行く」と言い、地元である北三陸へのデタッチメントの意識が標準語コードの使用で表されています。ところがときどき、以下に示すように、ユイは方言へのコード切り換えを行うことがあります。

(アキとユイは地元テレビ局からテレビに出ないかと誘われている)

春子：めんこいめんこいって煽られて 乗せられて 背中押されて都会に行ったら、辛い思いする、絶対。ここにいる大人は誰も責任取らないよ 田舎を捨てたって陰口叩くよ

ユイ：ごすんばいねぐ

春子：……え？

ユイ：オラも田舎を利用すてっから ご心配ねぐ

ヒロシ：…ユイ

アキ：なんか 開き直ってキャラ変えるそうです

ユイ：訛ってない方が良ければ戻しますが

池田：あ…いや…いいんじゃない？

ユイ：こう見えでオラ ずぶんのごど分がってっから あだだが一ぐ 見守ってけるじゃ

(第 35 回)

「テレビに出ないか」というテレビ局のディレクター（池田）の誘いに、アイドルになろうとして失敗した経験のある春子は「大人って誰も責任取らないよ」と心配しながら言います。すると、ふだんは標準語しか話さないユイが突然、「ごすんばいねぐ」と（わざわざステレオタイプのな）方言を話します。方言で商売をする「方言キャラ」としての自分を見せているわけです。このように、ふだんは使われなくなった方言語彙などが、テレビや観光産業などでビジネスのために誇張され

たかたちで用いられるものを、私は「ビジネス方言」と呼んでいます。¹⁰ このユイのコード切り換えは、北三陸の人間ではあるが、「北三陸の人間」としてではなく、「方言を話すタレント」としての立ち位置を示すものです。

その後の物語で、ユイは東京へ行くことを試みますが、何度やってもうまくいかず、さらに東京でアイドル活動（と言っても下積みですが）を始めたアキに先を越されてしまうこともあり、途中で自暴自棄になってグレてしまいます。しかし、春子たちの支えがあって立ち直り、だんだんと地元で溶け込んでいくようになると、自然な東北弁にコードを切り換えるのが見られるようになります。

（二人でアキの祖母の夏の様子を話している）

ユイ：すごいよアキちゃん ばんばん売れてる だって 夏ばっばなんて ウ

二井と一緒に車内販売してるんだもん

アキ：じぇじぇじぇ！夏ばっば そんなに良くなったのが？

ユイ：うん 調子が良い時は電車さ乗ってる

（第 132 回）

「電車さ乗ってる」と助詞「さ」を使っていますが、これは前例のような「ビジネス」ではありません。ユイのことばでは、実はこの「さ」の使用が、最も印象的です（私がかつとも好きな台詞でもあります）。これは、彼女が今まで大嫌いだった地元のなかで、ある種の立ち位置を見つけて生きていることの表れであると思われる。

これまで述べたように、どのようなことば（コードや形式）を選ぶかは話者のスタンス取りと大きく関わります。このような「ことばのバリエーション」の使用によって形成される話者の特徴的な話し方が「スタイル」です。図 1 で示すように、スタイルとスタンスは相互に関係しあっています。つまり、あるスタイルが示され

¹⁰ 「ビジネス方言」という言い方は、もともとは 2015 年 5 月 18 日放送の「月曜から夜ふかし」（日本テレビ系）で、マツコ・デラックスさんが共演者の村上信吾さんの関西弁がテレビ向きに「盛った」ものだとして指摘して、それを「ビジネス」と呼んだことが始まりです。

るとあるスタンスが指示され、逆にあるスタンスを取ろうとするとあるスタイルが利用されるわけです。アキとユイのコード選択・切り換えは、物語の大きな流れの中で、発話の状況や文脈を勘案してローカルに決定されるスタイルであり、そのスタイルによって二人のスタンスが示されることで、二人は物語世界を構成する要素として機能していきます。このメカニズムは、物語世界だけでなく、われわれの現実世界においても同様に働いているものと考えられます。われわれのことは、常に発話の文脈と関連付けられ、その場その場でその社会的意味が解釈されているのです。

コードの選択/切り換えが表象するもの

最後に「コードの選択/切り換えとその表象」という話をしたいと思います。これまで述べてきたように、私の話では「コード選択」「コード切り替え」は「スタンス取り」だと考えてきました。他にも理由づけはできるかもしれませんが、取りあえずはそう考えてみましょう。アキやユイの例からわかるように、われわれはその場その場で方言と標準語を行き来しながら、図1で示すような「対象」をめぐって「価値判断」することで話し相手との関係を調整する交渉をおこない、自分の立ち位置を決めていきます。では、この立ち位置を決めることとは、『あまちゃん』という作品の中ではどのような意味を持つのでしょうか。ことばのバリエーションの使用が、メディア作品のテキスト解釈とどうつながるかを示す一例と思ってお聞きください。

『あまちゃん』というドラマは、アキとユイというダブルヒロインがそれぞれの居場所を見つける物語だととらえることができます。東京に強くあこがれるユイは北三陸の人びとと積極的には交わろうとしないため、北三陸は地元でありながらもユイにとって決して居心地のよい場所ではありません。また北三陸に来る前のアキは、春子に言わせれば「昔も今も、地味で暗くて、向上心も協調性も存在感も個性も華もないパツとしない子」であり、下の例のように、友人たちの間でも存在感の薄い子で、東京に居場所を見つけることができませんでした。

(東京での自分の立場をアキが夢想している)

友人D：そう言えばさ アキって子いなかったっけ？

アキ：ええ!?

友人たち：知らな～い

アキ：……あ あの 私…… アキなんだけど

(第6回)

夢の中の「私…アキなんだけど」という彼女のことは友人(クラスメート)たちには届きません。友人たちにとって、アキはいないものと同じ存在でしかないのです。¹¹

東京に居場所が見つからないのはアキだけではありません。アイドルを目指して上京した若い頃の春子は、なかなかデビューすることができず、鈴鹿ひろ美の「影武者(シャドー)」として「潮騒のメロディ」を歌うことを受け入れます。しかし、そのことが結果的に彼女自身の居場所を奪ってしまうことになります。一方鈴鹿ひろ美は、女優としては成功しても、自分の歌唱ではない曲が売れてしまったこと、その結果、一人のアイドルのたまごを潰してしまったことに納得できない気持ちを持ち続けます。鈴鹿を「都会」、春子を「地方」の象徴だととらえれば、都会の華やかさは地方を踏みつけにして成り立っている「虚構」と言えるでしょう。二人は「本当のことが言えない」という矛盾を共有しながら、お互い直接出会うことなく20年以上を過ごします。

この春子と鈴鹿の居場所のなさを象徴的に示すのが「声」です。彼女たちは東京でそれぞれの「声」を失ってしまったと言えます。アキの夢の中で、鈴鹿ひろ美は若い頃の春子に向かって次のように言います。

鈴鹿：(若い春子に)「返して！私の歌を返して！」 (第101回)

¹¹ 「友人」という役名は、シナリオ本(宮藤2013)にある表記です。

自分名義にもかかわらず自分の声ではない歌声が聞こえる歌を取り戻したいと鈴鹿は訴えるわけですが、それは同時に春子の声は鈴鹿のものとして春子自身の身体から切り離されていること、そして鈴鹿の身体には春子の声が被さり、彼女自身の声は聞こえなくなっていることを意味します。アキも春子も鈴鹿は、皆同じく都会で自分の「声」をなくしているのです。

しかしながら、北三陸で暮らし始めたアキは、ズコリュー東北弁を使い始めます。このインチキな方言こそが、実はアキがもっとも自分らしくいられることばです。このように自分が自然だと思えることばを使うという行為は、われわれが現実の世界においても行っていることです。中村(2009)は、思春期の少女たちが自称詞「ぼく」を使う理由は、幼児期の自称詞から、「私」という大人の女性であることを示す自称詞への移行を求められることに感じる違和感にあると述べています。そのような少女たちにとって、自称詞「ぼく」は彼女たちが利用可能な言語資源の中で、「自然で居る(ムリをしないで居る)」ことのできる形式なのです。同様に居場所のなかったアキにとっても、自分で選び取った北三陸のことばは、自然でいられる自分の「声」になったと言えるでしょう。移住すればその土地のことばにだんだんと近づいていくことはよくあることなのかもしれませんが、すべての人が移住先のことばを使うようになるわけではありません。都会から地方に移住した場合、都会のことばを維持しようとする傾向が強いように思われますが、アキの場合は逆に移住先のことばが自らの存在をもっとも安定させることのできるものだったのでしょうか。

北三陸で自分の「声」を手に入れたアキですが、アイドルになるために東京に戻ったあとは、春子の人生を繰り返すように、アイドル「アメ女」のシャドーとして舞台下の奈落(海に潜る海女を連想させます)で居場所を得るべく奮闘努力します。しかしながら、彼女のことばは東京語に戻ることはなく、北三陸の方言のままです。北三陸のことばは彼女自身が選び取った「声」だからです。移住者たちが移住先のことばをその後の人生のことばとして選び取っていくことがありますが、アキは本来の地元であるはずの東京に戻っても方言を使い続けます。このことは、アキが北三陸のことばを自身のうちに内在化させたものと解釈することができるのではない

でしょうか。アキは「訛ってるアイドル」を演じるというより、「訛ってる」こと自体が身体化したとして表されているのです。

地方に住んでいる人はみなその地域の方言を話していると思われていますが、必ずしもそうとは限りません。ずっとその地域で暮らしていても標準語しか話さない人もいます。ユイはまさしくそういうタイプです。人によってどのようなことばを内在化させるかということは、自分が社会の中でどのような立ち位置を占めるかということと関連します。ことばが内在化するということは、他者との関わりにおいて、話者たちが自らの「声」として発現する言語資源を身体化させているということです。「ヴァナキュラー (vernacular)」という社会言語学の用語は「家族や友人らといるときに自然と使う日常のことば」(Mesthrie, et al. 2000) という意味で使われますが、それはまさに身体化した「声」としてのことばのことを指しています。

北三陸の方言は、アキにとってのヴァナキュラーになったのです。¹²

おわりに：方言は「コスプレ」するものか？

アキが方言を使うことが「方言コスプレ」と呼ばれることがあります(田中 2016, ベネッセ 2014)。若者が携帯メール等で関西弁などの自分のものでない方言を使用して「別の自分」になりきる(なりすます?)ことを意味する用語です。田中(2016)は、東京語(=標準語)使用者のアキがインチキ東北弁を話すことから『あまちゃん』を「方言コスプレドラマ」と呼んでいます。これまで述べたように、物語の文脈を考えると、アキの方言使用は非生育地のことばの「仮装」というナイーブな意味ではないと考えるべきでしょう。「コスプレ」という語の内容をどうとらえるかという問題なのかもしれませんが、インチキやズコリユであっても、少なくとも「アクセサリー」や「おもちゃ」のように一時的、遊戯的なものではなく、バイリンガル話者などの場合と同様に、アキは方言を「実装」し、自身の「スタイル」として使用していると思えます。田中(2016)はユ

¹² 「ヴァナキュラー」の語源はインドーゲルマン語系の「根づいていること」と「居住」からきているということです(安田 2015)。

イの標準語コードの使用についてはとくに何も述べていませんが、これもスタイル構築と捉えると、ユイの標準語使用も方言へのコード切り換えも矛盾なく説明できるようになります。「方言コスプレ」は、状況に応じてさまざまなペルソナを使い分ける現代の話者たちの行動を説明するには魅力的な表現ではありますが、「方言」の意味するものが「地域のことば」という面だけに限定されてしまうという印象も拭えず、またバリエーションを駆使した「スタンス取り」というより一般性のある説明が可能であることから、「コスプレ」と表現することの必要性には疑問を感じてしまいます。

以上がドラマの方言使用から見た自分の「声」としての方言というお話です。ありがとうございました。

【参考文献】

- Bell, Alan. (1984).
Language style as audience design. *Language in Society* 13(2),
145-204, Cambridge University Press.
- ベネッセ教育情報サイト (2014))
日本大学 文理学部 国文学科 (1『あまちゃん』の「方言コスプレ」から
社会が見える[大学研究室訪問 学びの先にあるもの 第14回]
<https://www.benesse.jp/juken/201402/20140224-1.html>
- 宮藤官九郎 (2013)
『NHK連続テレビ小説「あまちゃん」完全シナリオ集』
第1部, 第2部. 角川マガジンス.
- Du Bois, John W. (2007).The stance triangle. Robert Englebretson (ed),
Stance taking in discourse: Subjectivity evaluation interaction,
139-182. John Benjamins.
- Mesthrie, Rajend, Joan Swann, Ana Deumert, and William L. Leap. (2000).
Introducing Sociolinguistics. Edinburgh University Press.
- 蓑毛里奈 (2017)
『『あまちゃん』にみるメディアの方言と標準語の使用』
鹿児島大学法文学部人文学科 卒業論文.
- 中村桃子 (2009)
『性と日本語』NHK 出版.
- Podesva, Robert J., Sarah J. Roberts and Kathryn Campbell-Kibler. (2001).
Sharing Resources and Indexing Meanings in the Production of Gay Styles.
Kathryn Campbell-Kibler, Robert J.Podesva, Sarah J.Roberts, and Andrew
Wong (eds.), *Language and Sexuality: Contesting Meaning in Theory and
Practice*, 175-189. CSLI Publications.
- 渋谷勝己 (2009)
「書きことばにおけるスタイル生成のメカニズム : 山東京伝を例として」
『社会言語科学』18(1), 23-39.社会言語科学会.
- 田中ゆかり (2016)
『方言萌え!? — ヴァーチャル方言を読み解く』岩波ジュニア新書.
- 安田智博 (2015)
「ヴァナキュラー」『-arvis.com : 立命館大学生存学研究センター』
<http://www.arsvi.com/d/v07.htm>

【参考映像資料】

フジテレビ（2018）『海月姫』第1話（2018年1月15日放送）

NHK（2013）『あまちゃん』Blu-ray BOX 1-3,TOEI COMPANY,LTD.

「方言」の飛び交う国会審議

松田 謙次郎(神戸松蔭女子学院大学)

はじめに

皆さん、こんにちは。神戸松蔭女子学院大学の松田謙次郎と申します。今日はどうかよろしくお願ひいたします。

私は、国会でも方言は使われているという話を主にやってみます。こう言うと、「えっ、あの国会でも方言を使うのか」とお思いの方もいらっしゃると思います。はい、まさに方言が国会で使われております。ただし、ここで言う「方言」には3種類あります。まず皆様おなじみの地域方言です。例えば、三河や北海道、九州といった地域に独特な話し方という意味での方言です。「方言」と言った場合、これがもっともしっくりくる意味ではないかと思ひます。

それから「気づかない方言」です。これは何かというと、「自分では共通語だと思ひて日頃使っていたけれども、調べてみると実は方言だった」というものです。これは身近によく見られる現象です。研究者もいろいろな用語で呼んでいますが、ここでは「気づかない方言」と呼ぶことにします。

そして、国会でしか使われず、他のどこでも使われていないような「国会方言」があります。これも国会独自の言い方ということで、方言の仲間に入ります。この3種類が国会で方言として使われているということが、今日の話です。

さて、こうした方言が国会で使われていると言っても、まずどうやって調べるかという問題があります。テレビの国会中継をずっと見続けるというわけにも参りません。実はこれについては簡単に調べることができます。『国会会議録』という、国会の記録があるんですね。1回の国会で、通常国会は半年ほどやりますが、百科事典1セット分くらいの量の会議録ができるといわれています。国会はすでに190回ほど開かれていますので、国会会議録というのはいくらもものすごい量のものなのだとお考えください。

当然，そんな途方もなく巨大な国会会議録を人力で一つ一つ調べていくのは不可能です。現代ではこれをコンピュータで，しかもインターネットを通じてどこからでも国会会議録が検索できるようになっています。まったくありがたい時代になったものです。

国会における地域方言

ではまずは国会における地域方言についてお話ししましょう。国会は全国いろいろな地域から議員さんが代表として来ているわけです。しかし，国会会議録では方言を共通語に修正するという大まかなガイドラインがあります。ですから，本当は国会会議録には共通語しか出てこないはずですが，そこをすっくとぐり抜けて方言がひょっこり出てきてしまうことがあります。

地域方言がどんどんと衰退していき，全国的に共通語化がほぼ達成され，どこに行っても日本人は共通語を話すようになりました。ところが日本の政治の中心である国会では，地域方言がごくごく一部にせよ出現するという，ちょっと考えると不思議な状況があります。とは言っても，まったく理解不能な地域方言というわけではなく，地方色を残す程度の方言ということですが。

最近で言えば，財務省理財局の元局長の佐川宣寿さん，現局長の太田充さんなどが話題となりました。佐川さんは福島県の出身で，太田さんは松江市の出身です。彼らの発言については，ツイッターでも方言やなまりが出ていることを指摘されています。それでも，我々は彼らの発言を100%理解できるわけです。方言と言ってもその程度の方言です。それでも方言的な特色であることに変わりはないわけですが，こうしたものが国会会議録に出てくるわけです。

どういう人が，いつ方言を使うのか？

では，どういう人が，いつ方言を国会で使うのでしょうか。実は，国会で発言する人はたくさんいます。議員さん，閣僚，官僚。太田さんも佐川さんも官僚でした。それ以外の一般人でも参考人や証人などという形で，国会で発言することもありま

す。最近で言えば籠池泰典さんもそうでした。

年齢層で言うと、方言を使うのは、ほぼ中高年の男性議員です。これは当たり前のことです。なぜかと言えば、国会議員のほとんどが中高年の男性だからです。国会が、その構成員という面ではものすごく偏っている場所だということです。平たく言えば、「おじさん」や「おじいさん」が圧倒的に多いということです。

ではそうした国会で、なぜわざわざ方言を使うのかといいますと、地元の人向けのアピールという一面があります。地元の支援者たちにとっては、自分たちの故郷の代表が国会という場で地元の方言で発言してくれれば、とてもうれしいですね。そこで国会で方言を使うことは、最高の地元向けアピールになるわけです。

ところで、国会には大きく本会議と委員会があります。本会議とは、大きい部屋で、立派な演壇があるところで行われる会議です。委員会は、もう少し小さな部屋で開催されます。方言が出てくる会議は、委員会がほとんどです。この本会議と委員会の違いも、方言が使われるかどうかに関わっています。

本会議は、大抵の場合は原稿を読んでいます。原稿を読むとなると方言はなかなか出ません。国会発言中は、みんな原稿を読んでいると思うかもしれませんが、これは半分正解で半分不正解です。原稿を読んでいない発言もたくさんあるからです。委員会では原稿を読まないことも多いのです。本会議では議員席から立派な演壇の前まで行き、そこでまとめて質問をして、それに対してまたまとめて大臣が答弁をするのに対して、委員会では質問をしては答弁があり、その答弁に対してまた質問をするということを制限時間内に繰り返すため、いきおい質問と答弁が活気のあるものになります。これが委員会で方言が出やすいことに繋がっていくものと考えられます。また、委員会は本会議よりも小さな部屋で開催するため、質問する議員側と答弁側の距離が比較的近いことも大きな要因です。会話をする同士の距離が近ければ、親しい口調になりがちですね。

ここで、ちょっと次の発言を見てみましょう。

ここで述べた J R 山田線というのは、よう聞いてはると言ってるんやから大臣も聞いてほしいんですけども、ここは地元の全ての自治体が、B R T は要らぬと言っているんですよ。ここは動いていないんです、B R T は。私が聞いているのは、山田線の復旧はどう指導してんのやと。つなぐと言うたんやから、つなぐという話をどないしているかと聞いているんですよ。…

[穀田恵二議員 (第 183 回衆議院 国土交通委員会第 2 号, 2013 年 3 月 15 日)]

すごいですね、関西弁がバリバリです。これには続きがありますが、この続きもバリバリです。

いつから J R 東の使い者になっているのかよくわからぬけれども、地元の話もきちっと、両方言わなあかんですやん、あなた。

[穀田恵二議員 (第 183 回衆議院 国土交通委員会第 2 号, 2013 年 3 月 15 日)]

発言されていたのは、穀田恵二議員です。2013 年の国土交通委員会でした。「よう聞いてはると言っとるんやから」「言うたんやから」とか、「指導してんのや」「どないしている」とか、「言わなあかんですやん、あなた」とか、関西弁がたくさん使われていた発言でした。このように、地域方言が明らかに国会で使われている例は存在するわけです。

国会における愛知県方言

穀田議員の例は関西弁でしたが、皆さんの地元である愛知県の方言はどうでしょうか。国会で愛知の方言といいますと、やはりこの人が出てきます。河村たかし議員ですね。

それで、国会議員とか役人というのは、むさくるしいところで、もう仕事にあくせく、どえりゃあえりゃあところで働かないかぬ。

[第 154 回衆議院国会等の移転に関する特別委員会 4 号, 2002 年 5 月 31 日]

名古屋ですと大臣とは言いませんで、でゃあじんと言いますけれども、本当にどえりゃあときになりゃあたなという感じであります。

[第 140 回参議院運輸委員会 3 号, 1997 年 2 月 20 日]

河村議員、やはり期待を裏切りません。「どえりゃあ、えりゃあ」「でゃあじん」「どえりゃあときに、なりゃあたな」ということを言うてくださるわけです。期待どおりのご活躍ですね。

これから、ごく曖昧に「愛知方言」ということで括ります。もちろん、この「愛知方言」の中には、東三河、尾張、西三河といった区別がありますが、今は全て一緒にした話をします。

さて、「しよまい」という言葉をご存じでしょうか。次の常松克安議員の発言にこの言葉が出てきます。常松議員は三重県のご出身です。

いやいや、今度の仕事はようもうかるんや、おいわかつとるか、わかつとるね、そうかと。これはしとこまい、たまにはもうけさせてもらわなあかぬ、と言いながら十社の業者が集まって、まあまあそこは黙ってお互いに一千二百万円、相当これはありがたい、平素もうからぬでこの際参加しよまい、こういうふうなことをして参加したんではなかるうかと、こういうふうな平素から持ち続けている疑惑というものが、この際ひとつこの例を通してぴたっと証拠はここに出てしまっているんじゃないかなるか、こういうふうに申し上げておるんです。いかがでしょうか。

[常松克安議員, 第 126 回参議院決算委員会 2 号, 1993 年 4 月 5 日]

同じく、「やっとかめ」という言葉を見てみましょう。これはかなり有名な方言形だと思いますが、これが国会で使われている例です。

おはようございます。久しぶりにというか、やっとかめに質問させていただきます。

[鈴木政二議員，第 140 回参議院運輸委員会 14 号，1999 年 6 月 10 日]

1999 年，鈴木政二議員の発言です。やはり委員会であることに注目しましょう。この方は，碧海郡知立町(現:知立市)の出身です。まさに愛知方言地域です。その後岡崎北高等学校をご卒業になっていて，高校までずっと愛知にとどまっていたらしいことがわかります。

「けなるい」を見てみましょう。

それからもう一つは，常務取締役，専務取締役あるいは副社長，中には代表取締役を兼ねると，こういういわば私企業の中核的なところに入られる，つかれる，こういう場合には，単に在職中と新たに就職する企業との間に契約等の密接な関係がなければそれでいいのかという問題を少し感じました。これは，何といたしますか，のぞき趣味というか，あるいはけなるい，我々の俗語ですか，そういうやっかみということではありませんが，例えば土木建築請負業のかなり大手のゼネコンに仮に建設省の役人の方が入った場合には，一般の国民から見ると，かなりどうかなど思うことがあるんじゃないか。

[井上哲夫議員，第 120 回参議院 決算委員会閉 5 号，2003 年 6 月 5 日]

「これは，何といたしますか，のぞき趣味というか，あるいはけなるい，我々の俗語ですか，そういうやっかみということではありませんが」という形で、「けなるい」が出てきます。2003 年，井上哲夫議員です。この方は四日市市のご出身ですが，そ

の後は名古屋大学をご卒業なさいました。ここが愛知との繋がりなのではないかと思われます。

「えせん」はどうでしょうか。

それから、その方のいろいろなご意見をお伺いをすると、実は我々郵政省職員は、当時、いわゆるNTTですか、電電公社が独立をするときに、いや、彼らの方が近代的な産業ですごいなと思って、ある程度えせんだと、こう言うんですか、うらやましく思ったんだけど、今になってみると、IT社会になってくると電話の青電話も撤去されるようになってきた。

[草川昭三議員、第162回参議院郵政民営化に関する特別委員会8号、2005年7月25日]

これは草川昭三議員の2005年の発言です。実は先ほどからお出ししている発言は、現代に近い時代のものです。つまり、最近でも愛知の方言は、国会でそれなりに出てくるといふことなんですね。この発言も13年ほど前のものです。この発言をなさった草川さんは、名古屋生まれで名古屋市立第一工業学校卒業という経歴の持ち主です。愛知方言が出てくるのも自然だということですね。

国会にも地域方言が出てくるといふことが明らかとなりました。バリバリの関西方言もありましたし、愛知の方言もいろいろと出てきました。一見すると議員は皆共通語を使っているようですが、実は地域方言が顔を出しているわけです。

気づかない方言

では、2つ目の方言である「気づかない方言」はどうでしょうか。愛知県出身の議員さんで、自分は共通語を話していると思っておりますが、国会で思わず方言形を使っていたなどといふことはあるのでしょうか。

「気づかない方言」には、いろいろな例が報告されています。代表的な例をいく

つか出してみましよう。

九州方言・「なおす」(=共通語の「しまう」)

北海道方言・「サビオ」(=共通語の「絆創膏」)

関西方言・「カッターシャツ」(=共通語のワイシャツ)

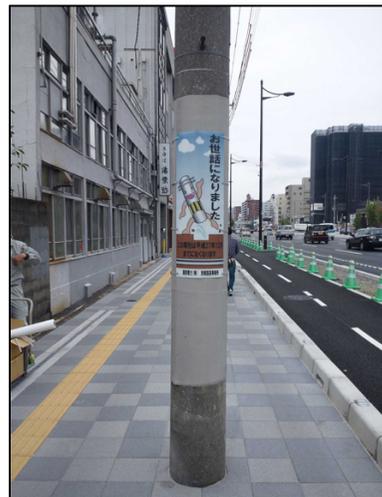
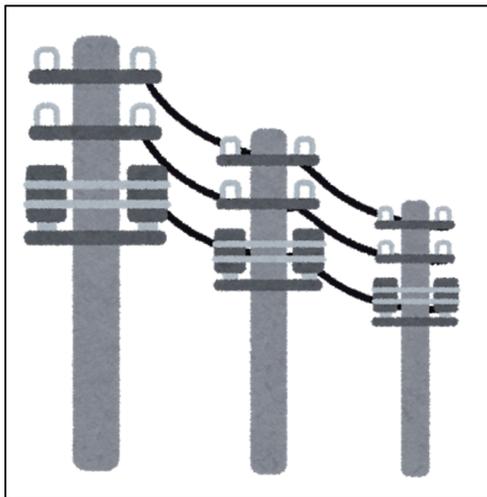
関東南部・「～じゃん」(=共通語の「でしょう」)

高知方言・「ラーフル」(=共通語の「黒板消し」)

九州方言の「なおす(=しまう)」, 北海道方言の「サビオ(=絆創膏)」。これはとても古典的な例です。関西方言の「カッターシャツ(=ワイシャツ)」, 関東南部の「～じゃん(=でしょう)」。私は東京出身なのですが, 「～じゃん」が共通語ではないと知った時の驚きは, 何とも言えないものでした。今でも個人的には「これは共通語だ」と固く信じ込んでいるのですが, 実は違うわけです。

高知方言の「ラーフル」をご存じでしょうか。「黒板消し」のことを「ラーフル」と言います。珍しい言い方ですね。高知や鹿児島, 大分でこのラーフルが使われます。もともとはオランダ語です。

さて, 突然ですがクイズです。皆さん, これは何でしょうか。



囁きがいろいろ聞こえてきますが、皆さん、これを地元の方言で「電信棒」と言いませんか。自分はこれを「電信棒」と呼ぶ、という人は手を挙げて頂けますか。(挙手) あ、いらっしやいましたね、ありがとうございます。いらっしやらなかったらどうしようかと思っておりました。共通語で「電信柱」とか「電柱」などと言いますが、愛知では「電信棒」が使われます。実際に国会での使用例があるんですね。

有線電話が繋がらないのは、電信棒が折れていますから、電気が来ませんからそれは仕方ないとしても、早いところ携帯電話だけ何とかできないのかというのが切実な願いで…

[田野瀬良太郎議員，第 177 回衆議院災害対策特別委員会 16 号，2011 年 9 月 9 日]

これは非常にいろんな面でいいような感じですけども、東京都内で電気の配線をやっている会社の方に聞いた話ですけども、地下に入れちゃうと災害時に復旧は大変難しい、どこで故障しているかわからぬと。上の電信棒だったらすぐわかる。

[高井和伸議員，第 126 回参議院通信委員会 4 号，2005 年 3 月 2 日]

最初の例は田野瀬良太郎議員の 2011 年のご発言です。たかだか 7 年前です。もう一つの方は、高井和伸議員の使用例で、これは 12 年ほど前のご発言です。これは気づかない方言なわけですが、修正されずに「電信棒」という方言形が、そのまま『国会会議録』に出てきているわけです。

念のためお二人の経歴を見てみましょう。田野瀬良太郎議員は、奈良県の出身で名古屋工業大学工学部のご卒業です。高井和伸議員は、名古屋の出身で、なんと愛知大学出身の OB です。やはりお二人とも名古屋もしくは愛知の関わりがあるわけです。そこからおなじみのある「電信棒」という気づかない方言が出てしまったのでしょうか。

ところで、先ほど、朝日先生のお話で「放課」という単語が出てきました。これとは別に、授業が終わった時間を指す言葉で、「授業後」という言い方があります。これも愛知の気づかない方言なんですね。これも国会で使われています。

授業後は、よくあります部活動に行きますね。

[斎藤嘉隆議員, 第 190 回参議院 文教科学委員会 3 号 平成 28 年 3 月 23 日]

それを見れば、先生が替わってもこの総合学習、いわゆる E S D 教育を進められるということになっておりましたし、また、授業後は先生方が集まって反省会、検討会もやっておられました。

[荒木清寛議員, 第 187 回参議院予算委員会 2 号 平成 26 年 10 月 8 日]

「授業後は先生方が集まって反省会、検討会もやっておられました」とは要するに、本当に一日の授業が全て終わった後というわけです。私であれば「放課後」と言いたくなるのですが、愛知では「授業後」という呼ぶのですね。これら 2 つの発言も委員会での発言でした。

2 つ目の荒木清寛議員のご発言は、参議院予算委員会でのものでした。予算委員会は、テレビでも中継されます。委員会としてはかなり広く豪華な部屋で行われる会議でして、また予算委員会は文字通り国家の予算に関する会議ですから、結局議員さんにとっては何でも質問できる委員会です。閣僚や総理大臣も出席するところから、予算委員会は「委員会の華」と言われています。

ここでまたお二人の経歴チェックと行きましょう。斎藤嘉隆議員は、名古屋市中村区生まれ、名古屋市立菊里高等学校、愛知教育大学を卒業というわけで、ずっと名古屋、愛知にいらっしまったことがわかります。

荒木清寛議員は岐阜県生まれです。残念ながら、荒木議員については、あまり詳しいことはわかりません。

主に愛知の方言の例をいくつか見てきましたが、国会では気づかない方言も使われていることがわかりました。おそらく、ここで扱った以外の言い方についても「実は方言でした」「共通語では使わない」という愛知の方言が、今でも国会で使われているはず。「気づかない方言」という形でも、国会は多くの方言を使っていることになるわけです。

国会方言—集団語の世界

それでは最後のカテゴリー、国会独自の方言、すなわち国会方言です。国会方言とは、どんなものがあるのでしょうか。日本広しといえども、あの狭い国会という場でしか使われない方言などというものがあるのでしょうか。

実は国会議員をはじめとする国会関係者(国会職員、議員秘書、マスコミの国会担当記者など)しか理解できない国会独自の表現が存在します。こうした言い方を言語学の専門用語で、「集団語」といいます。ごくごく一部の人間たちだけ、仲間内だけでしか使われず理解できない言葉のことです。

例えばデパートの売り場などで従業員がお手洗いに行く際に、仲間に「お手洗いに行く」とは言いません。お客さんの手前、直接的な言い方を控えて、仲間内だけで通じる言葉を使うわけです。集団語研究の第一人者でいらっしゃる米川明彦先生のご研究によれば、デパートによって「遠方」「さんさん」「スタジオ」「中村」など、さまざまな表現があるとされています(米川 2009)。これはデパートばかりではありません。集団で互いの結びつきが密であるような集団であれば集団語は発生します。警察にもあれば、泥棒の集団にもあります。自衛隊、小学校、クラブなどの実にさまざまな集団で、「集団語」が見られます。リアルな世界だけではありません。インターネットの掲示板でも、その掲示板の利用者にだけしか通用しない言葉が存在します(松田 2006)。まさに人生至る所に集団語ありで、いろいろなところで「集団語」が出てきます。そして国会でも集団語が発生するわけです。国会方言も「集団語」というわけです。

テレビ入り

では国会の集団語を見てみましょう。まずは「テレビ入り」です。これは国会審議がテレビ中継されることを指す用語です。例えば「今日の審議はテレビ入りだ」というように使います。テレビが入ってくるからテレビ入りなわけですね。そう言われれば「なるほどなあ」とわかりますが、突然「テレビ入り」と言われても、国会の事情に詳しくない一般の人には何のことやらさっぱりわかりません。これが集団語たるゆえんです。

今日は、予算委員会のテレビ入り質問という貴重な機会を与えていただきました。ありがとうございました。

[渡辺猛之議員，第 190 回参議院予算委員会 10 号，2016 年 3 月 7 日]

予算委員会という国会審議の華，そこに国会集団語である「テレビ入り」が出てくるわけです。さらに，皆さんご存じのこの方も国会集団語をお使いです。

でも，どちらにしろ，そんな議論は枝葉末節な議論であって，こんな大切なテレビ入りの委員会でこうしたことばかりやっているようでは，民主党も支持率は上がらないのではないかと心配になってくるわけであります。

[安倍晋三総理大臣，第 190 回衆議院予算委員会 4 号，2016 年 1 月 13 日]

「テレビ入り」は，もはや首相にも使われているほど国会の中で一般化しつつあるということですね。安倍首相もこの発言をなさった時には，きっと『「テレビ入り」くらいは，誰でもわかるだろう』と想像していたのでしょうか。もしくは，議論に夢中になってつい仲間内でしか使わない表現が口から出てしまったのかもしれませんが。いずれにしても，国会関係者以外のほとんどの人はまったく「テレビ入り」の意味

がわかっていなかったのではないのでしょうか。

この言葉ができあがった経緯を考えると、もともとは「テレビが入っております」という文であったと考えられます。それが名詞になって「テレビ入り」になってしまったわけです。ではなぜわざわざ名詞化するほどの必要があったのか。それは結局、テレビに映ることが、国会議員にとってすごく大事だからだということに尽きると思います。議員の地元支援者・支持者のためにも、「あっ、うちの先生が国会中継でテレビに出て発言している」というのは、非常に重要です。それは自分たちが支持している、まさにその議員が立派に国の中心で活躍していることを示すからです。絶好のアピールの機会ということですね。こういうわけで、国会議員にとって、自分が出る会議がテレビで全国中継されるかどうかということは死活問題なのです。死活問題であるからこそ、「テレビ入り」という表現が生まれてきたのではないかと考えられるわけです。

ところで先ほどの安倍首相の発言ですが、あれはいつ頃のものだったかというところ、2016年のものでした。そうです、「テレビ入り」は新しい国会集団語なんですね。そこで「テレビ入り」が国会会議録に登場した回数とその時期をグラフにしてみました（図1）。●印が使われた回数で、曲線はその大まかな傾向を捉えた曲線とお考えください。縦軸が登場回数、横軸がその時期です。多少のこぼこはありますが、「テレビ入り」が確実に増えていることはわかります。また、2004年くらいに誕生して以来、うなぎ登りに急増中であることもわかります。「テレビ入り」は国会でどんどん使われるようになってきているわけです。まさに現在進行中の変化、国会で絶賛増殖中の表現なのです。

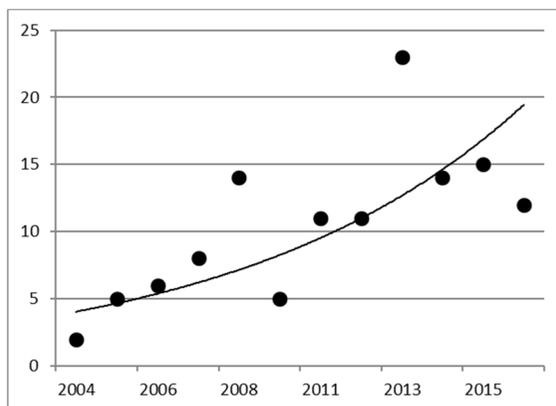


図1 国会会議録における「テレビ入り」の増加

お経読み

国会集団語の2つ目は「お経読み」です。これこそわけがわかりませんね。国会で誰かが突然亡くなったわけではありません。もちろん「国会議員全員でお経をあげましょう」ということでもありません。これは担当大臣が国会に提出した法案の趣旨説明をすることを指します。これはとても一般の人には理解不可能です。しかし、国会議員は、このような表現を使うわけです。さらに言うと、国会での質問や答弁で、こうした国会集団語を使ってしまうわけです。これも言うてみれば、気づかない方言ですね。国会議員たちは、「国民の皆さんもこの言い方をわかっているだろう」「みんな、知っているのだろう」と信じ込んでいますが、実は国会関係者だけの「集団語」、つまり、国会方言だということです。

「お経読み」は次のような形で使われていました。

先日、大臣から丁寧にゆっくりとお経読みをしていただきましたので、今日は私の方からじっくりと質問をさせていただきたいと思います。

[高橋千秋議員，第154回参議院総務委員会14号，2002年4月25日]

「先日、大臣から丁寧にゆっくりとお経読みをしていただきました」と述べていますが、先ほども申しましたように、もちろんこれは、別に大臣にお経を読んでも

らったわけではありません。ではなぜ大臣による趣旨説明のことを「お経読み」と言うのかといいますと、このような場では大臣は原稿を読むわけです。長い長い法案の趣旨説明、「なぜこういう法案を出しているのか」「この法案はどのような法案なのか」ということを読んでいくわけです。不謹慎ですが、聞いている方は退屈になってしまいます。眠気を誘うような単調な感じの読み上げ方から、「お経読み」という名前が付けられたようです。

この「お経読み」の実例で、非常におもしろいものがあります。小野清子国家公安委員長による発言です。

私も最初、国会議員になりましたときに、お経読みというのは何なのか、本当にびっくりいたしました。先生今おっしゃいましたように、この法案を出す提案理由というものをコンパクトにまとめて、それを皆さんにお話しするというのがお経読みと国会の中で言われている言葉の意味合いだと感じております。

[小野清子国家公安委員長，第 159 回参議院内閣 委員会 6 号，2003 年 3 月 30 日]

これは国会での「お経読み」という言葉の説明をしたという珍しい答弁です。これでわかるとおり、この方も議員になるまで「お経読み」という言葉を知らなかったということが、この答弁からわかってしまいました。議員になる前はわからなかったというのは、まさにこれが議員や国会関係者にしか通用しない表現だからだということです。ですから「お経読み」も国会方言の一つだということになります。

日本には国会の他にも地方議会があり、都道府県、さらにその下の市町村レベルでも議会があります。こうした議会で広く使われる「議会方言」というものもあります。例えば、「いたさせます」という表現がその一例です。「職員に～をいたさせます」「集計をいたさせます」というように使います。「いたします」(謙讓語) + 「させる」(使役) + 「ます」(丁寧語)、これらを全て連結して「いたさせる」という表

現になるわけです。説明されれば理解できますが、突然これを言われたら、言われた方は面食らってしまいそうです。これも一種の集団語であり、国会方言であるわけです。

「いたさせます」は議会では議長がよく使います。国会ばかりでなく、地方議会でも使われます。方言ですが、もちろん地域方言ではありませんあくまでも国会という場、もしくは特定地方議会のその場で繋がった人々の間で使われる方言だということなのです。

まとめ

長々と話してきましたが、そろそろまとめましょう。およそ方言とは縁のなさそうな国会でも、方言が使われていました。地域方言もありましたし、気づかない方言もありました。さらに国会という場の独自の方言もありました。気づかない方言には愛知方言もありました。国会方言には「テレビ入り」のように現在増加中のものもありました。

本日お話ししたことは、全て『国会会議録』で調べたものです。もちろん、紙で調べたわけではありません。冒頭で触れましたように、インターネット上で公開されている会議録を調べました。いとも簡単に欲しい情報が出てきます。国会ではビデオもインターネットで公開しております。最近では、このように国会で発言された内容が、簡単に取れるようになりました。言語研究者にとっては非常にありがたいことです。

なお、一言だけ付け加えますと、国会や議会での発言は速記や音声自動認識によって書き取られますが、それがそのまま会議録に出てくるわけではありません。その間の過程で、「整文」、つまり文を整える作業が入ります。議員さんの発言には、言い直し、言い誤り、繰り返し、また「あー」とか「あのー」といった、フィラーと呼ばれる表現も含まれています。最初の方で、方言を共通語に修正するという大まかなガイドラインに触れましたが、これはまさに整文の方針のことを指しています。こうしたものを全て取り入れてしまうと、会議録はとんでもなく読みづらい記録に

なってしまいます。会議録は記録ですが、同時に読みやすいものであって欲しいわけです。そこで、日本語の文章として読みやすいものに整えることになるわけです。

もちろん整文によってもととの発言の意図が変わってしまうようなことがあってはなりません。これはまさに改竄となってしまいます。元の発言意図を損なわずにできるだけ忠実に、それでいて日本語として読みやすい記録にする、これが整文の基本姿勢です。

ただし、整文は言語学者にとってはあまりありがたいものではありません。言語学者は、あくまで話されたそのままの記録が欲しいからです。この点で、整文が施されている会議録は、発言の記録としてはやや問題があることになります。ここで活躍するのが国会審議の中継や、インターネットで公開されている審議映像のビデオなんですね。これらと会議録を対照すれば、実際の発言のどこがどのように手直しされているのかが一目瞭然です。現代のテクノロジーは、こうして言語研究にとっても役に立ってくれているわけです。

さて、次の二階堂先生のお話では、地方議会の話もありますが、地方議会も国会と同じように、話していることの記録が簡単に取れるようになってきております。今後会議録は、言葉の研究にますます使われるようになってくるはずです。そして、国会や地方議会で使われる言葉の研究を通して、言葉一般の法則であるとか、言葉の変化のメカニズム、また方言の実態などがわかってくると思います。私の拙い話から、そのことが少しでもおわかり頂ければ幸いです。

ご清聴くださり、ありがとうございました。

【参考文献】

松田謙次郎（2006）

「ネット社会と集団語」『日本語学』第25巻10号, pp. 25-35.

米川明彦（2009）

『集団語の研究 上巻』東京堂出版.

【付記】

電柱画像は以下から使わせていただきました。

「かわいいフリー素材集 いらすとや」

(https://www.irasutoya.com/2014/09/blog-post_95.html)

国土交通局近畿地方整備局ウェブサイト

(https://www.kkr.mlit.go.jp/road/sesaku/non_pole/qgl8vl0000006jx3-img/05image01.jpg)

「福岡県議会における老年層議員のスピーチスタイル」

二階堂 整(福岡女学院大学)

二階堂です。よろしくお願いたします。地方議会を取り上げまして、方言の話をしていこうと思います。(以下、パワーポイント資料を枠内で示していく)

要旨

- ・ 福岡県議会議員の委員会発言に「少し丁寧な方言」というスピーチスタイルがある(ただし本会議は共通語)。
- ・ これは老年層が生み出したスピーチスタイルである。

今日、お話をする一番のポイントは、この二つです。福岡県議会議員の委員会発言に、「少し丁寧な方言」というスピーチスタイルがあるということ、そして、これは老年層が生み出したスピーチスタイルであるという二つをお話ししたいと思います。

現代日本の言語事情

よそゆき ⇒ 共通語 ふだん ⇒ 方言

大きくは、現代の日本語の場合、「よそゆき」のときは共通語を使い、「ふだん」のときは方言を使うという、単純に言えば2段階です。そのような言語生活を送っているかと思います。そのなかで、方言をどのように使うのか、方言をどのように使いこなすかというお話をしていきたいと思います。

今までの一連の発表は、「こんなのは方言だよ」「こんなところにも方言があるよ」というお話が主だったと思いますが、ここでは方言をどのように使いこなすかというお話です。皆さんは、多くの方が方言を話すわけですが、その方言を意図的に、どのように使いこなすかということです。例えば、豊橋市に、誰か歌手がコンサートに来たときに、合間のMCのときに、ちょっと方言を使うということがあります。そうしますと盛り上がり、親密な関係ができたりします。あるいは、海外の方が来て、愛知の方言を使ったりしますと、「おっ!」と思って、急に距離が縮まったりし

ます。これは意図的に方言を、大げさに言えば、武器として方言を使っているということです。

方言を意図的に使用する例

青森県議会議員発言（環境生活部長に対し）

それから、原子力。原子力安全対策課，環境生活部長，ガラス固化体は電力会社のものである。当たり前だじゃあな。おらの聞き方が悪かったんだべね。それだったら，事業者のものであるというのは電事連なのか，（中略），返す宛先を個々に把握しているのかということであります。

これは意図的に方言を使っている例です。青森県議会の委員会での発言です。いろいろと原子力安全対策課，環境生活部長に問うわけです。「ガラス固化体は電力会社のものである」と，ずっと共通語で話します。そして，二重下線のついているところですが，「当たり前だじゃあな。おらの聞き方が悪かったんだべね」と言います。ずっと共通語で話してきて，ここだけ方言の話し方をするわけです。続いて，「それだったら，事業者のものであるというのは電事連なのか」と戻っていくわけです。ずっと共通語で話していて，ここだけ方言がひょこっと顔を出して，また共通語に戻っていきます。これは策略として使っていると思われるわけです。こう聞いておいて，わざわざ，このような言い方をします。聞かれるほうとしては，あまりうれしい気持ちにはならないと思います。これは意図的に方言を使っています。これが一つの例です。

これからは，方言を使いこなしているといえますか，ある意味で，意図的に戦略的に使っている例を話していきます。

地方議会会議録 ネット公開（2010年調査）

都道府県議会は100%，市・区議会は95%以上。多数自治体で全文検索システムを導入（年度・発言者・キーワード検索など）。

議会中継録画のネット配信も増加。

まず前段として，議会の話をしていくことにします。地方議会は，「会議録」がネット上で公開されています。9割以上で「議事録」がネット上に公開されて検索す

ることができます。自由に誰でも見ることができるわけです。

地方議会の議員発言は方言資料。

会議録では、基本的に発言通りに文字化。方言もそのまま文字化。

地方議会議員の 87.6%が現在居住する都道府県で生まれ育つ。

これが方言資料として使えるわけです。なぜならば、「会議録」は基本的に発言したとおりに書かれていますから、先ほどの松田先生のお話のように、方言が出現するということがあるわけです。

国会と比べますと、地方議会の特色としては、ほとんどの方がその土地の出身の方ですから、その土地で生まれ育った人が使っている地元の方言が顔を出すということが、資料として価値があることになるわけです。

実際に、豊橋市も、このようにホームページがあります。

豊橋市議会HP

<http://www.city.toyohashi.lg.jp/gikai/>

会議録検索

<http://www.kaigiroku.net/kensaku/toyohashi/toyohashi.html>

そして、会議録は検索できるようになっています。議員名で入れることもできます。「奨学金」や「原子力」など、何か話題のキーワードを入れて調べることもできるようになっています。

豊橋市議会 気づかない方言

A 議員の発言 (H2 1.8 B 委員会)

他市と比べることは現在やってみえないかもしれませんよね。

他市と比べることは現在やっておられないかもしれませんよね (共通語訳)。

ちょっと豊橋の例を一つだけ……。私は九州の人間ですから、これでいいのかどうか分かりませんが、下線のところです。「現在やってみえないかもしれませんよね」と、「みえない」というのは、おそらく敬語として使っていると思います。そして、正しいかどうか分かりませんが、共通語訳としては、「現在やっておられないかもしれませんよね」と。もしかしたら、これは「気づかない方言」と言って

もいいかもしれませんが、このようなものが出てくることがあります。

せっかく豊橋市に来ているのですが、今日は、あえて福岡の例を使うことにします。

まずは、議会の仕組みを押さえておきたいと思います。国会と同じように、本会議の前に委員会があります。委員会で議論して、それが上にいき、本会議で審議されるわけです。基本的には、全国どこでも本会議と委員会では共通語を話します。方言丸出しで、どんどん発言している人はあまりいないわけです。

全国の県議会では、一般に、本会議・委員会ともに議員は共通語で発言することが多い。

しかし、方言も出現することがある（当選回数や選挙区は無関係）。

1. 本会議よりも委員会で方言が出やすい。
2. 冒頭発言よりも2回目以降の発言で方言が出やすい。
3. 方言をよく使用する議員は60代以上の男性に限られていた。

しかし、方言に注目してみると、上の三つになります。本会議よりも委員会で方言が出やすいようです。これは全国的な傾向です。それから、2番目として、冒頭発言よりも2回目以降の発言で方言が出やすいようです。これは議員の場合を言っているわけですが、1回目の発言は、代表質問みたいなものになるわけです。そうしますと、書いてあるものがあって、それを読むことになりますので、そこには方言は出にくいわけです。1回目の代表質問がありまして、行政側が回答します。それに対して第2の質問などがありますので、2回目以降の質問では、どうしてもアドリブでやるところがありますので、いわゆる話し言葉が出やすくなりますから、2回目以降で方言が出やすいという傾向があります。

それから、方言をよく使用する議員は、おおよその傾向として、60代以上の男性に限られるということが言えます。ただ、これは議会の特性で、どうしても男性が圧倒的に多いことがあります。そして、20代の議員は、福岡でもいませんから、どうしてもこのような傾向になるということがあります。

取り上げるのは委員会の発言です。委員会があって、本会議があるわけですが、

先ほどの国会の話にもありましたように、委員会は小さな部屋でおこないます。ところが、本会議は、堂々とした会場がありまして、だいたいどこでも発言者がいて、後ろに高い段があって議長がいるというような立派な会場です。ずいぶん会場の雰囲気も違います。本会議は、どこでもテレビで中継されたり、ケーブルテレビで流されたりすることがありますが、委員会では、そういうことはありません。ですから、委員会と本会議では質的にだいぶ違うわけです。

本会議では、60代以上の男性議員でも共通語で話すわけです。ところが、委員会になりますと、特に60代以上の福岡県議会の委員会の発言のなかに、方言が顔をのぞかせるわけです。

福岡県議会会議録

電子データ公開 本会議：平成7年5月以降 委員会：平成12年4月以降
 検索システム ことば・発言者・会議の種類・会議の期間で検索可
 映像 平成23年以降の本会議

データとしては、このようなかたちです。本会議は平成7年から、そして、委員会は平成12年から公開されています。いろいろなシステムがありまして、検索ができるようになっていて、映像も公開されています。これらを用いてやっていきます。

＜福岡老年層議員のスピーチスタイルの使い分け＞

場面	本会議	委員会	友人との会話
言語	共通語	少し丁寧な方言	普段の方言
意識	よそゆき	ややよそゆき	ふだん

まず、今日のテーマのところですか。ここがポイントです。本会議の場合は、言葉としては、どの議員も共通語で話します。意識としては、よそゆきのことだと思っています。福岡の場合は特にそうですが、おそらく60代の議員は方言や地元意識が強いので、普段のときは普段の方言を話していると思われます。

場面の中間にあたるのが委員会の発言です。60代以上の議員の発言ですが、少し丁寧な方言を話します。方言が出てくるわけですが、こちらの普段の方言の話し方とはちょっと違うわけです。これについては、おそらく、普段とよそゆきの中間にあたるという位置づけを考えています。意識もそういうものであると思われる。

スピーチスタイルの使い分け

福岡県議会議員70歳以上7名中4名（2014年度）

少し丁寧な方言

本文中に方言が頻出し、文末を共通語の敬語で結ぶ。

（丁寧語「です」「ます」・尊敬語「れる」「られる」）

具体的には、ここに出しましたが、福岡県議会では2014年度に、70歳以上の議員が7名いました。そのうちの4名が、少し丁寧な方言を使うわけです。

どのようなものかと言いますと、発言中に方言が出てきます。文末が、共通語の敬語を使いますが、限られていまして、丁寧語の「です・ます」、それから尊敬語の「れる・られる」というかたちで結んでいきます。

ですから、方言で話していて、文末だけ「です・ます」にしたり、「れる・られる」にしたりします。ここで言う少し丁寧な方言とは、このようなものです。これが型として決まっていまして、「このような型で使う」となっているわけです。それが議員に共通していて、しかも必ず委員会だけに出てきます。年配の男性議員だけに出てくるところが、非常に面白いところです。

YT議員の発言（厚生労働環境委員会 2009年12月14日）

だから、就職も本気になってさせるごとせにゃ、ならんもんが悪いとやないかなと思いますけどね。（中略）ここで教育の話したたっちゃしょうがないけどすね。

（二重下線：方言 波線：共通語の敬語）

具体的に見ていこうと思います。まず、YT議員の発言の委員会の例です。二重下線が方言です。そして、文末に出てくる波線のところが共通語です。ここで言う方言とは、福岡の方言もちろんですが、大ざっぱに広く西日本方言も含んでいます。

本文中の話している途中では、方言がポロポロ出てきますが、最後だけは敬語で縮めています。敬語の縮め方が「です・ます」「れる・られる」となっています。このような型が決まっているということです。

YT 議員の発言再質問（メモを読み上げていない）（平成 7 年 6 月本議会 1995 年 6 月 26 日）

そこで、これは現在のところ、私個人の考えで、何らオーソライズされたものではありませんが、当面効果が大きくかつ着手しやすいもの、例えば（中略）などの考え方も必要であると思っているところでありますが、そこで、これらの点を含め事業実現に向け知事の並み並みならぬ決意のほどをお聞きしたいと思います。

次に、同じ YT 議員の発言が、委員会ではなく本会議ではどうなるかといいますと、このようなかたちになります。これは 1 回目に質問をして、次の 2 回目の質問ですから、何かを読み上げているわけではありません。これを見ますと、先ほどの委員会の話と全く違うわけです。

「これは現在のところ、私個人の考えで、何らオーソライズされたものではありませんが、当面効果が大きくかつ着手しやすいもの……」と、同じ人がこのように話し方をしているわけです。

先ほどの資料（YT 議員 厚生労働委員会発言）に戻ります。この人が委員会で発言するときは、先の例の話し方をします。

ところが、本会議になりますと、このような話し方（YT 議員再質問）になります。ですから、完全に使い分けをしています。切り替えているわけです。この議員は共通語も使えますし、方言も使えるわけです。委員会で方言を使うときには、先のように方言を使いながら、文末だけ「です」「ます」というかたちで結ぶわけです。

I S 議員の発言（平成 26 年度予算特別委員会 2014 年 3 月 24 日）

頑張ったってできんと、どげんするのと。本当ですばい。それけん、一番大事なのは、それならもうなくなるよと言ったらどうだろうと思います。なくなるとよかろうと。今のようなら、県も金かけて校舎を立派につくったり、人を置いたりしませんよと。しかしやっておるから、何とかせないかんと。

同じような例ですが、これは IS 議員の委員会での発言です。二重下線のところで。「頑張ったってできんと、どげんするのと。本当ですばい。それけん、一番大事なものは、それならもうなくなるよと言ったらどうだろうと思います。」という、方言を使いつつ、文末は波線の共通語の敬語で結ぶという形でやっているわけです。

IS 議員の発言 (2012 年 12 月本会議 再質問)

一つは、これ二つとも森林関係ですけれども、森林環境税をずっと農林事務所単位で調べてみました。(中略) ずっと突き詰めていきますと、森林組合の体制ができていないところが、今まで国の補助やらもらってしてなかったものですから荒廃になっておる、そういったところは。

同じ人が本会議になりますと、「一つは、これは二つとも森林関係ですけれども…」と、このような共通語の話し方をしているわけです。

とにかく話し方が全く違うわけです。われわれは、きちんとしたときには共通語を話し、友達とは方言を話すというように切り替えをするわけです。この人たちも、ある種の切り替えをしているわけです。委員会のときには、方言を交えながら、文末は「です・ます」「れる・られる」で結び、本会議になりますと、がらりと話し方を変えて、このような堅い共通語による話し方をします。

TH 議員 (81 歳) の発言 (2001 年 12 月 厚生環境委員会)

そうせんと、またまた。議事進行。確かに大事な議論があつておると思います。ただしですね、何回か同じようなことでね、答弁にもよるとでしょうけれどもね、お昼前に聞いたことと同じような質問もあつておるから、その辺ちょっと整理してやってください。

少し同じような例を見ていきたいと思います。これからは委員会の例だけ出します。TH 議員です。二重下線と波線のところです。このように方言と共通語が混じっています。

I K 議員（76 歳）の発言 （2013 年 12 月 建築都市委員会）

私の聞き間違いかもしれんですけども、委員会に傍聴したというあれがちょっと出たですね。あれは、うちのところに傍聴はしてないですもんね。福岡市議会の傍聴をされたものか、その辺ちょっと確認しとかんと、何か無視されたような形になりますので。

それから、もう一つ IK 議員の発言です。「あれがちょっと出たですね」と、今、これを読むと、変な感じになると思います。「ちょっと出たですね」というのは、書き言葉であれば出てこない言葉です。話し言葉にしても、ちょっと不自然なところがあると思います。これは先ほど言いましたように、方言で話しながら、文末だけ、ある意味、機械的に「です・ます」「れる・られる」と置き換えています。それが出ているところだと思います。「ちょっと出たですね」と、そこだけ置き換えようということですよ。

今、四つの例を出しましたが、議員の 70 代のうちの 4 名ですから、70 代のあと 3 名は、委員会も本会議も共通語で話すわけですが、70 代の半分くらいが上記のようなスタイルを使うわけですよ。委員会用の話し方と本会議用の話し方が、全く違うわけですよ。面白いのは、委員会と本会議がきちんと使い分けられていることですよ。なおかつ、委員会のときの言葉の使い方が、みんな同じで型が決まっているわけですよ。方言で話すのですが、全て方言で話すわけではなく、最後だけは、「です・ます」「れる・られる」となるわけですよ。

例えば、外国語のものまねをしたりするときに、文末だけを外国語っぽく置き換えて、それらしく聞こえるということをやります。また、今日の前半のお話にもありましたが、ドラマの方言のように、最後だけ「～ばい」「～たい」をつけると、いかにも福岡の言葉らしく聞こえるというのがありました。太田先生の発表のなかにも、置き換えるときに人称や文末だけ方言にするという話がありました。やり方としては、同じことをやっているわけですよ。ですから、最後だけを、「です・ます」に置き換えるのは、かたちはいろいろありますが、考え方や方法はドラマの方言などと同じだと思います。ドラマで、最後だけ「～ばい・～たい」と方言を出して、福

岡方言らしく聞こえるようにすることと同じなわけです。

佐賀県議員 60代以上議員18名中3名

高知県議員 60代以上議員21名中2名

に、このスタイルが出現（ただし、本会議にも一部出現）。

今までは福岡方言の例でしたが、他にも佐賀や高知で同じようなものがあります。特に九州あたりでは、方言がよく出ることがあります。九州のあちこちの年配の議員などは、方言がちょこちょこ出ますが、特に方言がたくさん出るのは、九州の佐賀県や四国の高知県です。

ただ、福岡との違いは、委員会と本会議で明確に使い分けがあるわけではないのです。高知も佐賀も、本会議にも方言が出てきます。福岡と同じことは、佐賀も高知も、先ほどと同じようなスタイルをとります。年配議員が方言で話して、文末だけ「です・ます」でまとめていくというものです。時間があれば、最後に具体例をお話ししたいと思います。

福岡の少し丁寧な方言が出現する例

- ・地元土産物店で老年層の地元店員が観光客と話す場合
- ・地元の老年層話者が観光客に道案内する場面

福岡の議員の委員会のような話しぶりは、他の場面でも、おそらく出てくると思います。例えば、福岡の地元の土産物店で、年配の店員さんが観光客と話す場合です。どうしても方言が基調になりますが、相手がよそから来た人ですから、丁寧に話そうとすると、「です・ます」をつけることになります。

それから、地元の老年層が観光客に道案内をするときも、やはり丁寧に話そうと思いますから、方言が基調になるんですが、何とか丁寧にとって「です・ます」がつきます。

具体的に見ていきます。これは実際に調査した例です。駅までの簡単な道のりの地図を渡して、この地図を参考にしながら、駅までの道のを説明してもらうという調査を全国でやりました。福岡の例を示します。

一つは、よく知った友達に聞かれた場合、もう一つは、見知らぬ東京の人に聞かれた場合です。

福岡の道教え

例 地図を見ながら、見知らぬ人に駅までの道のりを説明する

銀行の前ば行かれて、えー、郵便局の前その先ずーっと行きよりましたら交番がありますけん、交番を右に曲がられたら、真っ正面に駅があります。

例 友人に説明

郵便局があるーが。そこを前を通りよったら、交番があるけん、交番の先ば右へ曲がりゃ駅たい。すぐわかる。

上は見知らぬ人に説明する場合です。「銀行の前ば行かれて」と、「れる・られる」が出てきます。「郵便局の前その先ずーっと行きよりましたら」と、「ます」が出てきます。「交番がありますけん、交番を右に曲がられたら、真っ正面に駅があります」ということで、「れる・られる」「ます」が出てきます。

同じことを友人に説明するとなると、「郵便局があるーが。そこの前を通りよったら、交番があるけん。交番の先を右に曲がりゃ、駅たい」という形になります。

ですから、議会だけではなく、このような話法やスタイルが、福岡で日常的に用いられると考えられるわけです。おそらく、使っているのは年配の人が中心でしょうが、年配の人は、どうしても方言がベースですから、ふだんは方言で話します。しかし、敬意を示さないと悪いということになりますと、具体的には敬語を使わないといけません。使いやすい敬語となりますと、「です・ます」「れる・られる」となります。それを文末につけます。とにかく、方言で話していても、末尾にだけつけてしまうわけです。ドラマで共通語で話して、福岡方言らしく聞かせるために、文末だけ「～ばい・～たい」をつけるのとは逆バージョンです。方言で話しているけれども、共通語らしく聞かせて敬意を示すために、文末だけ「です・ます」をつけるというものです。

非常に大事なことは、これは老年層があみ出した形だということです。言葉は変化していきます。言葉に限らず、変化をするときは、若い人が作り出し、変化を与えることが多いわけです。しかし、方言を話しながら、文末を「です・ます」に置き換えるスタイルは、若い人ではなく年配の人が作り出したものです。

「年配の人は、あまり言葉を生み出したり、変化させることはない」と一般的には言われますが、そうではなく、このことにおいては、年配の人が新しく作り出した言葉の形であるを見たいわけです。それが注目すべきところです。

老年層		若年層	
ふだん	方言	ふだん	方言
よそゆき (中間)	文中 文末 方言+共通語敬語 (少し丁寧な言い方)	よそゆき	共通語
よそゆき	共通語		

なぜかと言いますと、この図式にあるところです。普段は方言を話します。よそゆきのときは、共通語(標準語)です。ややよそゆきのときに、文中は方言を使い、文末は「れる・られる」「です・ます」を使います。

逆に、若い人は、二つしかありません。普段は方言を使い、よそゆきは共通語を使います。年配の人のほうが、3段階という非常に新しいものを生み出したかたちになっているわけです。

「少し丁寧な方言」スタイル誕生の事情 委員会 中間のバランスを保つ

よそゆき	中間	ふだん		使用要素	相手との距離
本会議	委員会	友人との会話	よそゆき部分	共通語敬語	保つ
			ふだん部分	方言	縮める

先ほどの話を、もう一度、整理したものです。中間的なものが、委員会にあたります。よそゆきが本会議にあたります。なぜ、そのようなことをしているかと言いますと、委員会のことを考えるとき、「ふだん」と「よそゆき」の中間、本会議と友人との会話の中間にあたるのが委員会ですから、どちらとも言えません。どちらとも言えないとなりますと、どうするのでしょうか。よそゆきの要素は共通語であり、普段のところは方言なわけです。

考えてみますと、委員会は本会議よりくだけた場です。とはいえ行政側と、ある意味で、交渉したり、戦ったりする場です。そうしますと、距離の取り方として、よそゆきの面がありますから、そこは共通語で表します。それが距離を取ることであるわけですが、それだけでは交渉できないとか、相手を説得できません。そうするためには、距離をつめなければいけません。距離をつめるときに、どうするかと言いますと、手段として方言を使うということがあるのではないかと思います。

行政側の回答が十分でない場合や、行政側を追求する時、方言だけになり、共通語の敬語は消える。以下は福岡県議会委員会の議員発言例。

国の概算要求が出とるのに、なんで県の責任者は出てこんとな。あんた、言うこと要らんよ。今、連れてきない、あんた。当たり前の話やるうもん。

それはわかっとうたい。具体的に言ってみなさい。十五土木事務所あるやらう。どういうふうな形で、だれがその評価の資料をつくってきて、本庁に上げるとね。

次に、議員も「方言を使うときは使うよ」という例を示したいと思います。ここには共通語敬語はありません。二重下線ばかりです。これは行政側を追求している場合です。行政側がちゃんとした回答をしないために、感情が高ぶったり、怒ったりすると、方言が丸出しになったりします。一応、最初は方言と共通語を混ぜたスタイルで発言するのですが、いよいよ怒ってきますと、相手にどんどんと言わなければなりませんから、言うためにはどうするのか、批判するためにはどうするのか。言い方は悪いですが、せめるためにはどうするかといいますと、言葉としては、共通語を使わずに、方言丸出しで言っています。その例です。言われる側のことを考えればわかりますが、このように言われますと、とてもつらいと思います。ですか

ら、作戦としてやっているということが言えるのではないかと思います。

佐賀県議会の例

佐賀は 60 代以上の 18 名の議員中、男性議員 3 名が少し丁寧な方言に該当する。

委員会では方言が頻出し、文末に共通語の敬語がでる。

また本会議の冒頭においてさえ、方言が出る点が特色である。

まだ時間があるので、先ほどお話ししました佐賀と高知の例を見ていきたいと思えます。まずは佐賀の例です。60 代以上の 18 名の議員のなかで、3 名が少し丁寧な方言で話しています。つまり委員会では、方言が頻出し、文末が共通語敬語になっています。特に、福岡との違いは本会議の冒頭、つまり、普段であれば紙に書いてあるものを読み上げるかたちですが、そのようなところにも方言が出ます。この場合は、「です・ます」で結ぶものですが、そのようなかたちが出ます。委員会には限らないということです。

IM 議員（66 歳）の発言 （2014 年 3 月総合交通対策特別委員会）

後で本じゃい何じゃい読みいしゃい、おもしろかですよ。そして、こいばずっと読んでいきよぎんね、我田引水という言葉は知っとうわけですね、だいでん知っと。読んでいきよぎんね、今度は「我田引鉄」て書いてあるわけですね。そいぎん、こいばずっと読んでいきよったぎんですよ、おもしろいことに気づいたわけですね。

まずは委員会の例です。波線が共通語の敬語「です」と結んでいます。また、二重下線のたくさん方言が出てくることがわかると思います。たくさん出てきますが、文末のところは「です」と結んでいるわけです。

MY 議員（71 歳）の発言 （2012 年 10 月原子力安全対策等特別委員会）

それはあなたたち知らんだろうから、後ろの方に聞いてから言ってください。いやいや、よかけん。そがんかとは一回聞いてください。何のため、そけ座つとるね。聞かんね。聞いとらん。ちょっと委員長、もう少し丁寧に聞かんね。何ちゅうもんね。片手間のやり方で何でそこに座つとるね、あんたたちは。何のため、補助員として座つとるかい。もう少しね、丁寧に協議をして答えなさいよ。

それから、これは MY 議員です。これも委員会の例です。福岡のものよりも二重下線の方言がたくさん出てくることがわかんと思います。文末のところは、「ください」というかたちで結んでいきます。

MY 議員（71 歳）の発言（2005 年 6 月 本会議 冒頭）

あなたの名前ですよ、どがん思うですか。危ないけん補修ばまずしましょうとか、どがんだろうかという話し合いがされるならよかとばってん、いきなり撤去。魚市場ばつぶすつもりですか、あんたは。そういうことで、あんた、よかて思うととると、大体。その辺は僕は質問しませんけどね、ひとつそういうことがあっているということだけは、知事は頭ん中に入れとってください。

次は本会議の例です。本会議の冒頭のところです。先ほどよりも、やや二重下線の方言が少しは減ったという様子です。一方で、先ほどよりも波線の共通語敬語が多いのがわかんと思います。「あなたの名前ですよ、どがん思うですか」と、知事に詰め寄っているところです。本会議の冒頭発言にもかかわらず方言が出てきます。

しかし、スタイルとしては、方言を使いながら、文末のところが敬語で結ばれています。それは、福岡の例と変わりません。

IH 議員（64 歳）の発言（2008 年 12 月 県土整備常任委員会）

それは責任とってもらわんば。いや本当ですよ。六角川と嘉瀬川ばどがんすつですか。松浦川はどっちかというぎかたかとけんですね、地盤が。松浦川はそれはよかと思うですよ、失礼かばってん。0 委員に失礼かばってん。六角川と嘉瀬川は、これはほんなごてよう考えて権限移譲をせんというと、大変。そがしこは言うときます。

これも同じです。二重下線の方言がたくさん出てくるのはわかんと思いますが、文末は必ず「です」「ます」で結んでいます。

高知県議会の例

高知では 60 代以上の議員 21 名中、男性議員 2 名が少し丁寧な方言に該当する。

本会議では基本的に共通語だが、委員会で、方言が頻出する。

さらに、委員会では、共通語の敬語も出現するが、やや数も少なく、福岡・佐賀県

議会のように、「デス」が多用されない。代わりに文末が「ネ」「ヨ」で終わっている。それが特色となっている。

次に、高知の例を見ていきたいと思います。これも 60 代以上の議員 21 名中 2 名に、少し丁寧な方言が出てくるわけです。高知の場合は、福岡や佐賀ほど機械的に文末を「です」で結ぶということはありません。どちらかと言いますと、方言色が非常に強いです。特に、文末が「ネ」「ヨ」で終わる例が出てきます。先ほどよりも、型があまり守られないということです。

SN 議員（74 歳）の発言（2014 年 3 月 危機管理文化厚生委員会）

知事も講演には行かれるけんども、そういうことを考え、頭に置いてやっていかないと、建物だけつくって、ベッドだけ整備してよ、お医者さんはいないということでは、これは困ったもんじゃなあと実際は思うね。それと、医療センターだってそうでしょう。これは精神病院のほうじゃけんどもね。（中略）その辺が僕はちょっとどうしゅうのかなあとと思うわけよ。

これは委員会の例です。二重下線と波線のところを見ていただきたいと思います。例えば、違いはどのようなところに出てくるかと言いますと、最後の文です。「どうしゅうのかなあとと思うわけよ」というかたちで、ここでは方言が出ますが、「わけよ」の「よ」と、これは方言と思われるわけですが、委員会の場において、相手に聞いているわけですが、「思うわけよ」と、普通、このように言われますと、ドキッとするわけです。方言的な使い方、このようなことが出てきているかと思えます。

SN 議員（74 歳）の発言（2013 年 9 月 本会議 再質問）

このままいったら恐らく 4 年先も 10 年先もなかなか全国の 46 位へも上がれないんじやなかろうかという懸念を持って聞かしていただいたわけですが、高速道路時代を迎えておりますので、（中略）産業振興計画とあわせて力を入れて取り組んでいくべきじゃないか。

次は本会議の例です。これは方言があまりありません。「なかろうか」というところくらいが二重下線の方言です。比較的、「です」「ます」というかたちで結んでいます。ただ、最後のところで、「取り組んでいくべきじゃないか」というようなかた

ちで終わっています。

ME 議員（63 歳）の発言（2014 年 3 月 商工農林水産委員会）

（前略）その物すごいおいしいって言うがやけども、売ろうとしちゅうのかと思うて、ずうっとその中でキーワードとして消費と販売と外商と販路と稼ぐと、この 5 種類を調べてみたらね、農業分野一個もないがですよ。（中略）これ成功してもらいたいと思いますが、そこのところのちょっと心意気というか、腹づもりをちょっとだけ聞きたいね。

今度は委員会の例です。これもかなり方言が出てきています。「です・ます」で結んでいるところもありますが、最後の文のところでは、「腹づもりをちょっとだけ聞きたいね」と、「ね」というような言い方が出てきます。これは先ほどの佐賀や福岡と少し違うところ。必ずしも「です・ます」で結んでしまわないというところ

です。
このように、60 代以上の議員の幾人かは方言を意図的に使いこなしていると思います。委員会の場では、あえて、あのような言い方（方言を使いつつ、文末は共通語敬語）をすることによって、相手との距離を取りつつ、逆の意味で詰めるかたちで、本会議とは違ったかたちで交渉として、あのような言葉を使っているのではないかと思います。

少し時間前ですが、これで終わることにします。どうもありがとうございました。

(質疑応答)

○司会 はい、ありがとうございました。このあと、全体の質疑応答もありますが、その前に、まず個別に二階堂先生にご質問があれば、この場で伺いたいと思います。いかがでしょうか。

○男性 A 全く、こういうところがないかという、単純に興味で教えていただきたいのですが……。例えば、15枚目の資料の「です」の使い方を見たときに、「しようがないけどですね」みたいな、あり得ない語順で「です」が出てきています。

あと、その前の表現、それだけに限らず、他の「です」の使い方を見ましても、いわゆる、文末のあとの文末詞という捉え方もできそうですし、間投助詞的に、いわゆるポピュラーな意味合いもなく、添えているだけのような感じがするのですが、そういうものに該当する方言形と言いますか、その土地における代替形式はあるのでしょうか。

○二階堂 これがというのは、すぐに出てきませんが、普段に話す言い方を、何かに置き換えているところは、確かだと思います。方言で言いましたら、全く別の系統になるもので置き換えるかと言われますと、ちょっと厳しいですが……。

福岡でも「ばい」「たい」はよく出ますが、これが「ばい」「たい」の置き換えかといいますと、ちょっとそれは無理があると思います。

ですから、逆に「ね」とか「よ」が、そのまま残ったと考えられるかと思います。正確な答えではなくて、すいません。

○男性 A ありがとうございます。ちょっと思ったのが、要するに、丁寧体で表現しようと思うと、もう標準語形というか、共通語形しか、選択の余地がなかったとしたら、もともと本会議のほうでは、いわゆる共通語ベースの表現をすることは、通常にできる人たちであるとしたら、あと方言形を入れようとしたら、その部分以外しか入らないという順番で……。つまり、文末や繋ぎのところなど、そういうよどみの部分は、そもそも丁寧体をもった共通語形しかなかった結果が、このスタイルにたどり着いたのかなという気もしたのですが、そういう理解ではまずいでしょうか。

○二階堂　そういうこともあると思いますが、もう一つ、考えておかないといけないと思います。この人たちは、共通語も使えるけれども、普段は方言を使いこなしていると思います。このようなことを生み出した時代的な背景や変遷があると思います。共通語が入ってくる前であれば、この人たちは方言敬語を使っていると思います。ですから、実際に、お友達と話すときには、今の福岡でもそうですが、「～しんしゃ」「～しんしゃい」と言った敬語を使います。それが、もし自由に使えていたとしたら、今の文末のところは、おそらく方言敬語を使うような場面でもあるわけです。それが使えないということは、一つ考えておかないといけません。

ですから、方言敬語が使えないからどうするかといいますと、同じ敬語の共通語の「です・ます」「れる・られる」を使うというのが一つです。

そして、やはり、ここで、なぜこれを使うのかという目的を考えたときに、委員会で特別な言い方として、相手と交渉をしたいという言い方として、方言的要素が出てきますし、相手と距離をつめようと思ったら、「よ」「ね」が出てきます。そのことも考えておかないといけないとは思います。

(終了)

『みんなの知らない方言の世界』

(愛知大学人文社会学研究所 2017 年度ワークショップ報告書)

2019 年 3 月 20 日発行

編 者 片岡 邦好

発 行 愛知大学人文社会学研究所

代表者 伊東 利勝

〒441-8522 豊橋市町畑町 1-1

Email : irhsa@ml.aichi-u.ac.jp

U R L : <http://taweb.aichi-u.ac.jp/irhsa/>

印刷所 東海電子印刷株式会社

